

# 構造設計標準仕様

## 1. 建築物の構造内容

- (1) **工事名称** 金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)  
**建築場所** 横浜市金沢区泥亀二丁目76番地の1
- (2) **工事種別**  新築  増築  増改築  改築
- (3) **構造種別**  
 木造(W)  補強コンクリートブロック造(CB)  鉄骨造(S)  
 鉄筋コンクリート造(RC)  壁式鉄筋コンクリート造(WRC)  
 鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC)  プレキャスト鉄筋コンクリート造(PRC)  
 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)
- (4) **階数** 地下 一階 地上 2階 塔屋 一階
- (5) **主要用途** 事務所
- (6) **屋上付属物**  
 高架水槽 kN  キュービクル kN  広告塔  煙突
- (7) **特別な荷重**  
 エレベーター  リフト kN  ホイスト kN  
 倉庫積載床用 N/m<sup>2</sup>  受水槽 kN
- (8) **付帯工事**  門扉  擁壁
- (9) **増築計画**  有 ( )  無
- (10) **構造計算ルート** X方向ルート 3- ( ) Y方向ルート 3- ( )

## 2. 使用構造材料

(1) **コンクリート**

適用箇所	種類	設計基準強度 Fc=N/mm <sup>2</sup>	スランプ cm	備考
捨コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18	18	高炉セメントB種
押えコンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	33	15	高炉セメントB種
基礎、地中梁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量	33	18	
柱、梁、床、壁	<input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量			
	<input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量			
	<input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量			
混和剤	高性能AE減水剤を添加する			

(2) **コンクリートブロック(CB)**  
 A種  B種  C種 厚  100  120  150  190

(3) **鉄筋**

種類	径	使用箇所	継手工法	
異形鉄筋	<input checked="" type="checkbox"/> SD295A	D16以下	壁、床、帯筋、あばら筋	<input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手
	<input type="checkbox"/> SD295B			
	<input checked="" type="checkbox"/> SD345	D19~D25	柱梁主筋	<input checked="" type="checkbox"/> ガス圧接継手
高強度せん断補強筋	<input checked="" type="checkbox"/> KSS785	S13	帯筋	<input type="checkbox"/> 特殊継手
	<input type="checkbox"/> SR235			( )

溶接金網(JIS G3551)

(4) **鉄骨**

種類	使用箇所	現場溶接	備考
<input checked="" type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SM400 <input type="checkbox"/> SM400A.B.C	通路、目隠し壁	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> STKR400 <input type="checkbox"/> STKR490		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> BCR295 <input type="checkbox"/> BCP235		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> SM490A <input type="checkbox"/> SN490B.C		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input checked="" type="checkbox"/> SSC400 <input type="checkbox"/>	胴縁	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	

○使用箇所の詳細については別途図示とする。

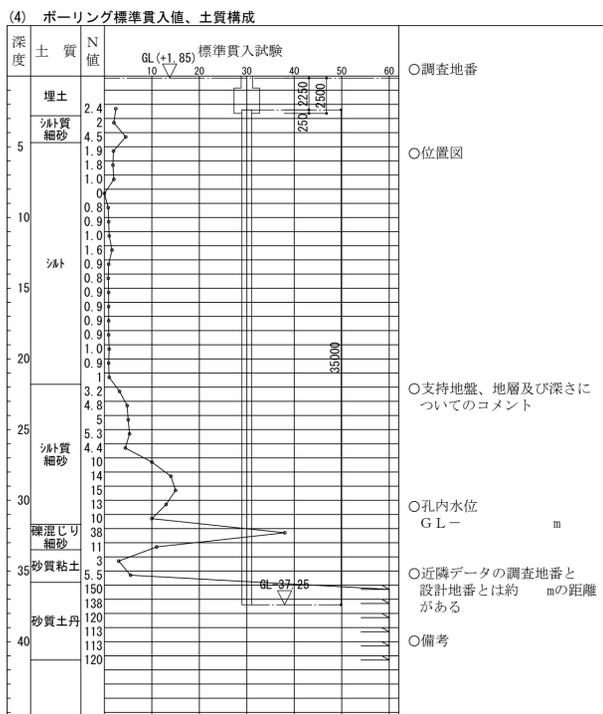
(5) **ボルト**

高力ボルト  
 普通:F10T  特殊:S10T  
● 亜鉛メッキ:F8T  
 中ボルト  
M M  
● アンカーボルト  
● SS400 M12 L= 300mm ナット ● シングル  ダブル  
M16 L= 500mm ナット  シングル ● ダブル  
M L= mm ナット  シングル  ダブル  
 頭付スタッドボルト  
φ= L= mm 使用箇所  柱  大梁  小梁  
φ= L= mm 使用箇所  柱  大梁  小梁

(6) **屋根、床、壁**  
 ALC版 厚  
 折版(ﾙｰﾌﾟ) H= 厚  
 デッキプレート 型式 厚  
 キーストプレート 型式 厚

## 3. 地盤

- (1) **地盤調査資料**  
 有(●) 敷地内(○) 近隣) ● ボーリング調査  平板荷重試験 ● 土質試験  
● 液状化判定  現場透水試験 ● 水平地盤反力係数の測定  
 無(調査予定  有  無)
- (2) **地盤調査計画**  
 ボーリング調査  静的貫入試験  標準貫入試験  水平地盤反力係数の測定  
 土質試験  物理探査  平板荷重試験  試験堀(支持層の確認)
- (3) **地盤調査及び杭試験の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある**



## 4. 地業工事

- (1) **直接基礎**  
 ベタ基礎  布基礎  独立基礎 試験堀  有  無  
深さ 支持層  
長期許容支持力度 kN/m<sup>2</sup> 載荷試験  有  無
- (2) **杭基礎** 支持層 固結シルト層

杭種	材料	施工法
<input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PRC	PRC <input type="checkbox"/> I種 <input type="checkbox"/> II種 <input type="checkbox"/> III種	<input type="checkbox"/> 打ち込み
<input checked="" type="checkbox"/> PHC <input type="checkbox"/> H鋼	PHC ● A種 ● B種 <input type="checkbox"/> C種	<input type="checkbox"/> 埋込み(セメントミルク)
<input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 摩擦杭	鋼材 ● SS400 <input type="checkbox"/> STK400	<input type="checkbox"/> プレボ-リング 拡大根固め工法(α ≥ 315)
<input checked="" type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> SKK400 <input type="checkbox"/> SKK490		<input type="checkbox"/> オールシリング <input type="checkbox"/> 底底杭
<input type="checkbox"/> 場所打ちコンクリート杭	コンクリート Fc= N/mm <sup>2</sup> スラブ cm セメント量 kg/m <sup>3</sup> 鉄筋主筋 SD HOOP SD	<input type="checkbox"/> リバースサ-キレーション <input type="checkbox"/> ニアス <input type="checkbox"/> ア-ストリル <input type="checkbox"/> 深礎 <input type="checkbox"/> 手堀 <input type="checkbox"/> 機械堀

大臣認定 第 TACP-0342 号  
平成22年 2月 5日

杭仕様 ● 施工計画書承認 ● 杭施工結果報告書  
試験杭 ● 有  無  打ち込み  載荷 本  
(先行杭)

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項
900	3900	GL-37.25	9	
700	2300	GL-37.25	12	
600	1700	GL-37.25	2	

## 5. 鉄筋コンクリート工事

- (1) **コンクリート**
- コンクリートはJIS認定工場の製品とし、施工に関してはJASS5(2015)による。
  - 耐久設計基準強度 Fd  一般 ● 標準  長期
  - セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
  - 調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
  - 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
  - フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
  - 水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。また、打ち込み量が150m<sup>3</sup>を超える場合は150m<sup>3</sup>ごとまたは、その端数ごとに1回を標準とする。1回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当り6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。
  - ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。
- (2) **鉄筋**
- 鉄筋は、JIS G3112の規格品を標準とする。施工はJASS5(2015)による。
  - 高強度せん断補強筋は、JIS G3137に規定されるD種1号適合品とする。
  - 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
  - D19未満は、すべて重ね継手とする。
  - 継手部分の施工要領は(社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」(ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事)による。
  - ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を超えるときには、200箇所ごと)に1回行い、1回の試験は引張試験の時は5本以上、超音波探傷試験の時は40本以上とする。外観検査 ● 有  無  引張試験・超音波探傷試験の併用とする ● 有  無  ただし、当初の5ロット分は非破壊検査を行った中から抜き取りし、引張試験を行うこととする。
  - 柱の帯筋(H00P)の加工方法は、 H型(タガ型) ● W型(溶接型)  S型(スパイラル型)とする。(丸柱はスパイラル型とする。)
  - コンクリート及び鉄筋の試験は、公的第三者機関とする。試験機関名 横浜市建築工事特別仕様書により、公的試験機関とする。代行業者名 代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者という。
- (3) **型枠**
- 材料 合板厚 12mmを標準とする。 ● 施工はJASS5(2015)による。
  - 型枠存置期間



- 注1 片持はり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。  
注2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。  
注3 支柱の早期取外しに関しては工事監理者の承認を得ること。  
注4 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

## 6. 鉄骨工事

- (1) **鉄骨工事は指示のない限り下記による**  
 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」  
 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
- (2) **工事監理者の承認を必要とするもの**  
 製作工場  製作要領書  工作図  施工計画書  認定工場または登録工場  
 材料規格証明書または試験成績書  
 鋼材  高力ボルト  特殊ボルト  頭付スタッド  
 社内検査表
- (3) **施工管理技術者**  
 適用する
- (4) **工事監理者が行う検査項目** (  印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)  
 現寸検査  組立・開先検査  製品検査  建方検査
- (5) **接合部の溶接は下記によること**  
 日本建築学会「溶接工作規程、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」  
 日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」
- (6) **接合部の検査**  
 溶接部の検査(検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		社内	第三者	工事監理者	
<input type="checkbox"/> 完全溶込み溶接部	超音波探傷試験	%	%	%	注1) 現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査を行う事。 注2) 現場溶接部は、超音波探傷試験を100%行う事。
<input type="checkbox"/>	外観(目視)検査	%	%	%	
<input type="checkbox"/>	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

- 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
- 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が充分密着するよう注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。
- (7) **防錆塗装**
- 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5674、2回塗り又は同等品とする。
  - 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は急に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

## 7. 設備関係

- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
- 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
- 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/4以下とし管の間隔を20cm以上を原則とする。
- 床スラブ内に埋込む配管は大梁断面を縦、横断してはならない。やむを得ない場合は、工事監理者の承認を得ること。
- 床スラブ内の配管の経路は事前に検討を行い、配管が集中する箇所については工事監理と協議の上、部分的にスラブを下げる又は、スラブを厚くする等の対策を講じること。

- 令第129条の2の4の事項
- 建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
  - 建築設備(昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれのないものとする。
  - 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
  - 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とする。
  - 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
  - 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、5-1 ● 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。  
5-2 ● 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
  - 5-3 ● 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
  - 5-4 ● 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
  - 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあつては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。
  - 給湯設備は、支持構造部及び緊結金物を腐食又は腐朽のおそれのないものとするほか、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

## 8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
- 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
- 必要に応じて記録写真を撮影保管すること。

■注記		管理建築士		横浜市建築局		工事名	
		一級建築士 登録第166404号 吉村久夫		図面名称		金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)	
		年月日 平成28年6月		縮尺 A1=1/二 A3=1/二		図面名称	
		設計者		図面枚数		図面番号	
		株式会社 国設計		構造		S-C01	

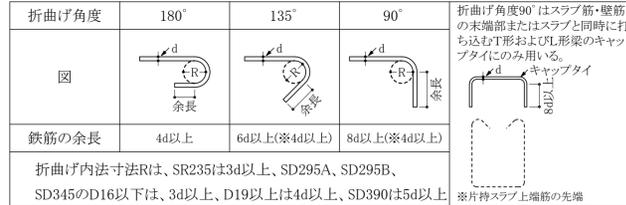
# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

## 1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号  
 d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D…部材の成 R…直径  
 @…間隔 r…半径 e…中心線 l…部材間の内法距離 ho…部材間の内法高さ  
 ST…あばら筋 HOOP…帯筋 S.HOOP…補強帯筋 φ…直径又は丸鋼

## 2. 鉄筋加工、かぶり

### (1) 鉄筋末端部の折曲げの形状



### (2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

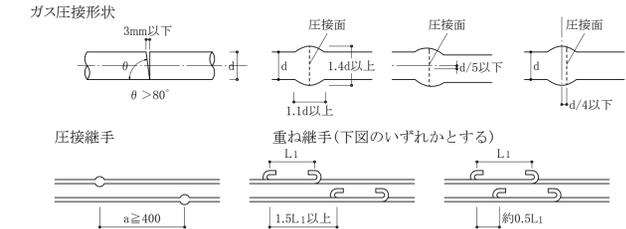
図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内の寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ以下 D16	3d以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SD295A SD295B、SD345 SD390	16φ以下 D16 19φ～25φ D19～D25 28φ～32φ D29～D38	4d以上 6d以上 8d以上

### (3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm <sup>2</sup> )	定着の長さ			特別の定着及び重ね継手の長さ(L <sub>1</sub> )
		一般(L <sub>2</sub> )	下ば筋(L <sub>3</sub> )		
SR235	21～36	35d フックつき	25d フックつき	15cm フックつき	40d フックつき
	18以下	45d フックつき			45d フックつき
SD295A SD295B SD345	21～36	35d または 25d フックつき	25d または 15d フックつき	10d かつ 15cm以上	40d または 30d フックつき
	18以下	40d または 30d フックつき			45d または 35d フックつき
SD390	27～36	35d または 25d フックつき	25d または 15d フックつき	10d かつ 15cm以上	40d または 30d フックつき
	27未満	40d または 30d フックつき			45d または 35d フックつき

### 継手

- 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長とする
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
- 鉄筋径の差が7mmを越える場合は、圧接としてはならない



### (4) かぶり厚さ(単位: mm)

部位	設計かぶり厚さ(mm)	
	設計かぶり厚さ	最小かぶり厚さ
土に接しない部分	屋根スラブ	30
	床スラブ	20
	非耐力壁	40 <sup>(1)</sup>
	耐力壁	30(20)
土に接する部分	柱・はり	40
	耐力壁	50 <sup>(2)</sup>
	擁壁	40 <sup>(3)</sup> (30)
	基礎・擁壁	70

- [注] (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。  
 (2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。  
 (3) コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。  
 (4) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。  
 (5) ( )内は仕上げがある場合。

### (5) 鉄筋のあき

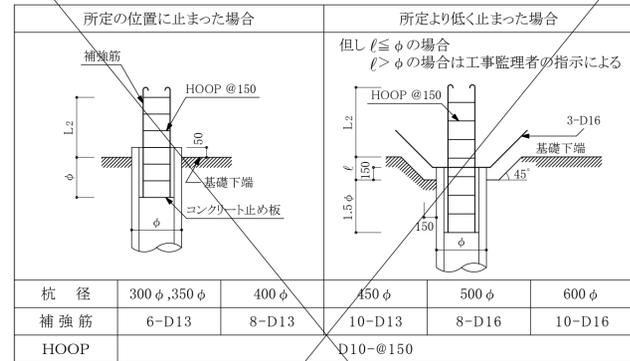


### (6) 鉄筋のフック (a～cに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

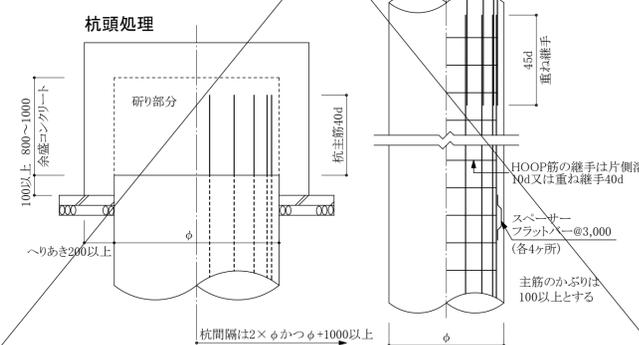


## 3. 杭(地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

### (1) PRC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

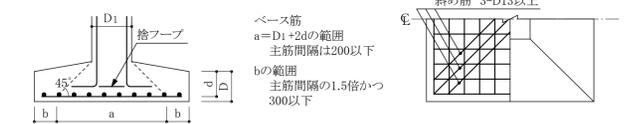


### (2) 現場打ちコンクリート杭

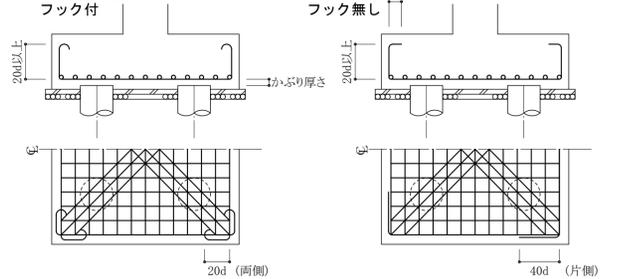


## 4. 基礎

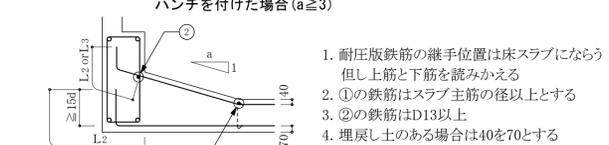
### (1) 直接基礎



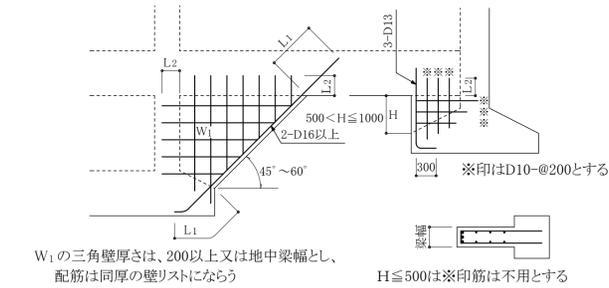
### (2) 杭基礎



### (3) ベタ基礎

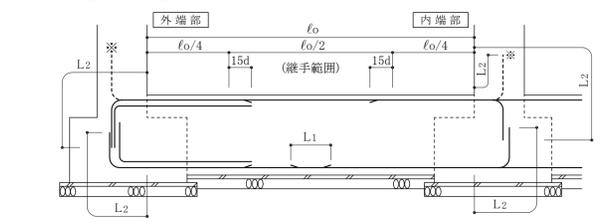


### (4) 基礎接合部の補強

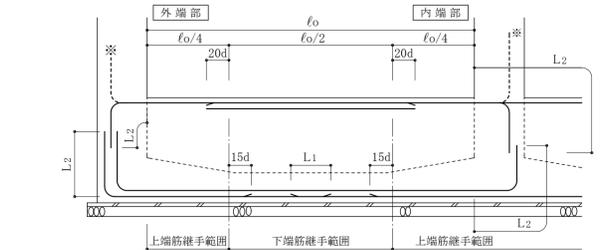


## 5. 地中梁

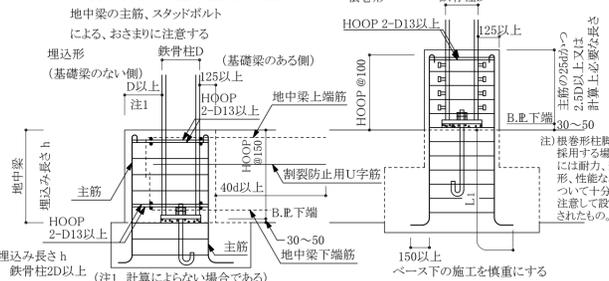
### (1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)



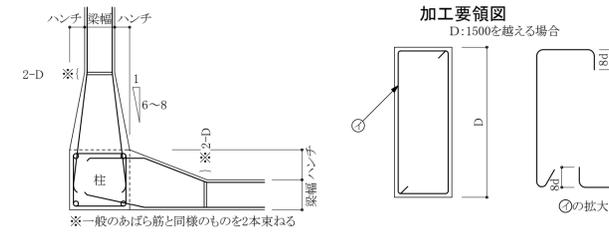
### (2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)



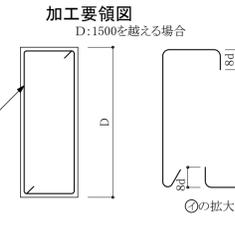
### (3) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋



### (4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

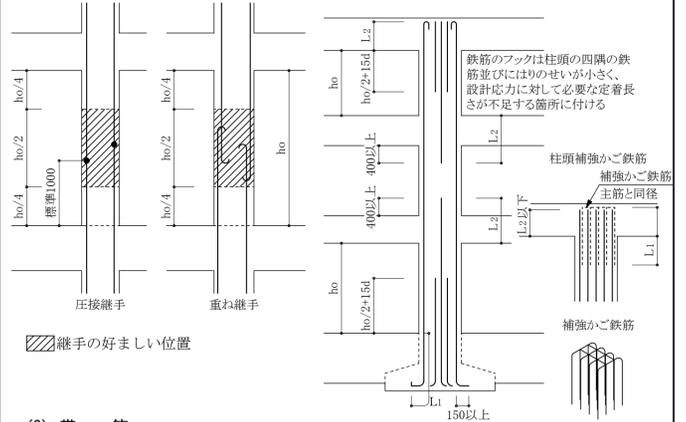


### (5) せいの高い梁のあばら筋加工要領図

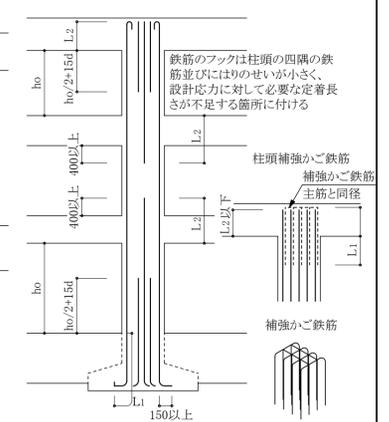


## 6. 柱

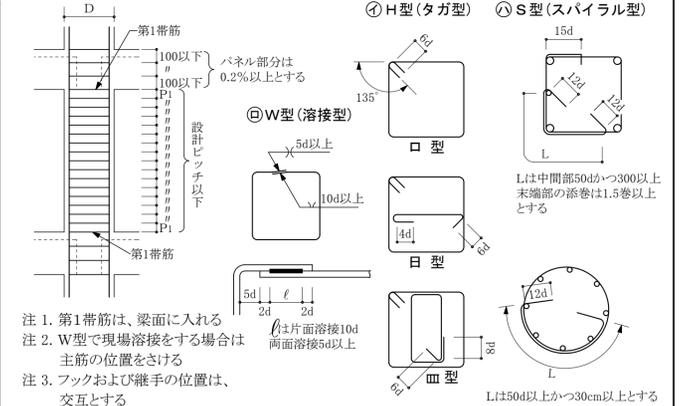
### (1) 柱主筋の継手



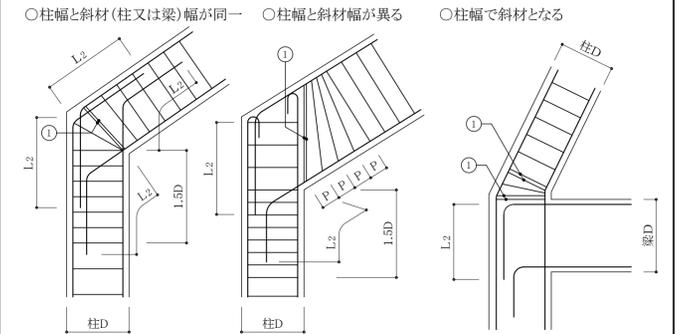
### (2) 柱主筋の定着



### (3) 帯筋

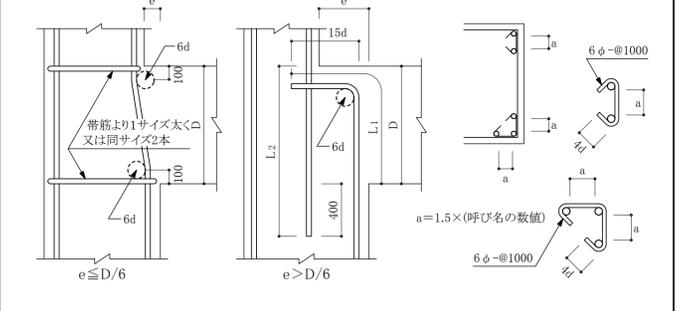


### (4) 斜め柱・斜め梁



- 注 1. 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし@100以下とする  
 注 2. ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする

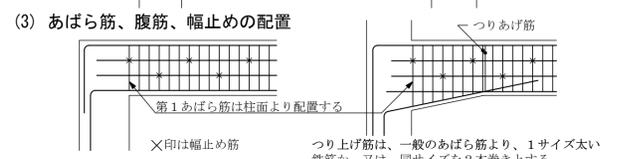
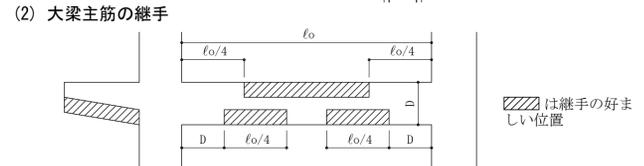
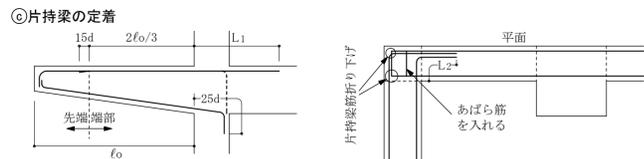
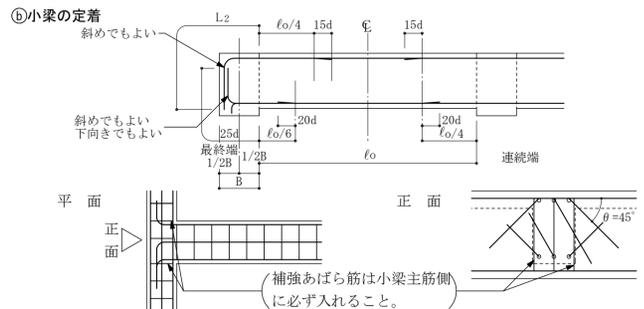
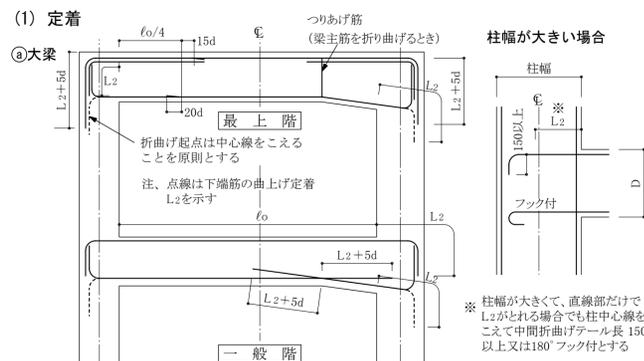
### (5) 絞リ



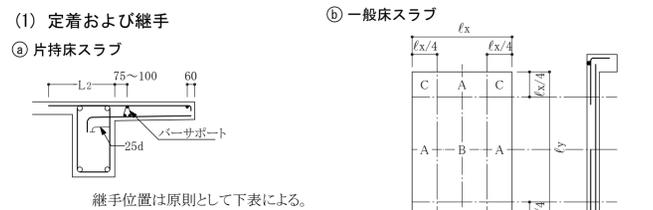
# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

L=鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

## 7. 大梁、小梁、片持梁

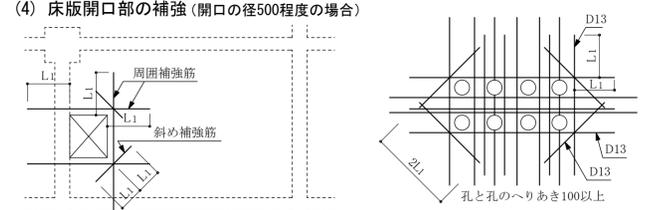
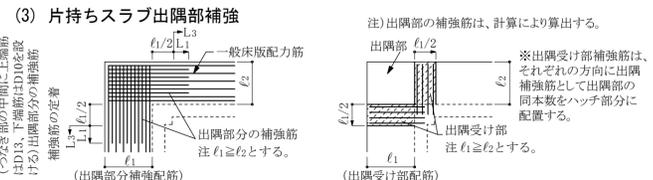
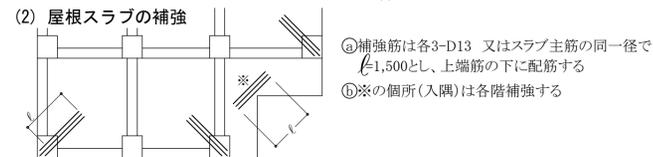


## 8. 床版

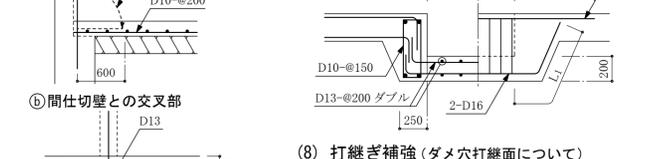
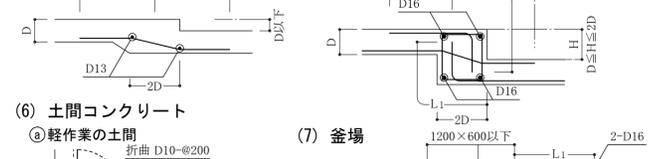
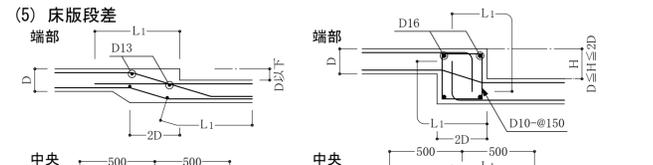


標準継手位置

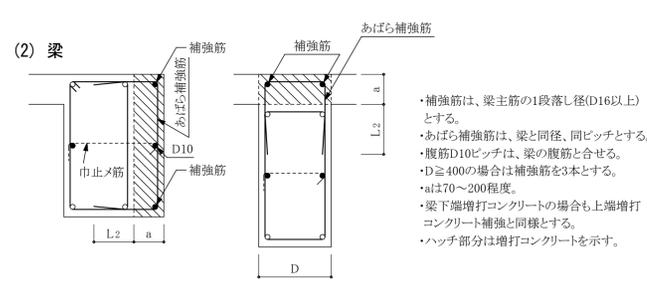
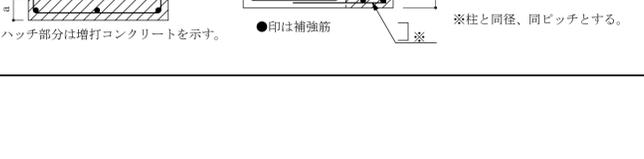
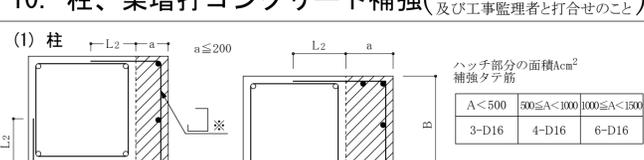
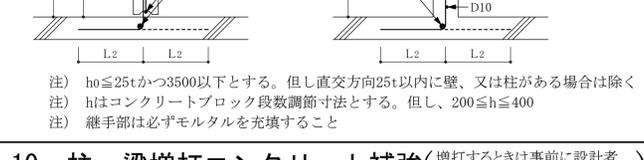
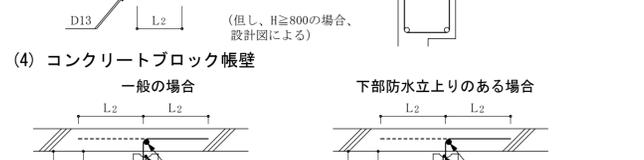
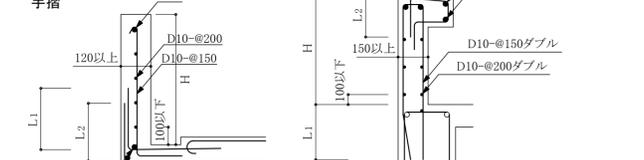
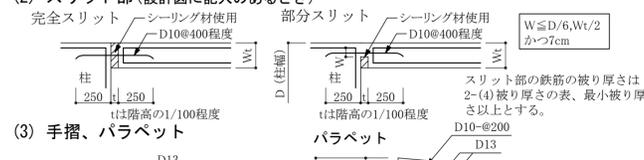
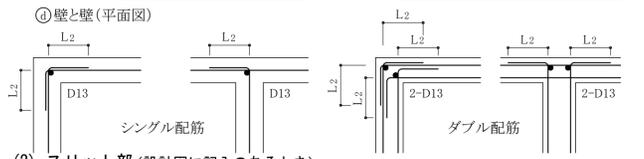
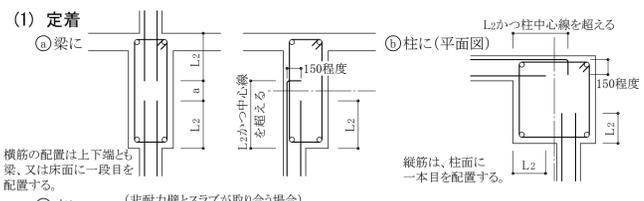
上端筋	短辺方向	B
下端筋	短辺・長辺方向	A C



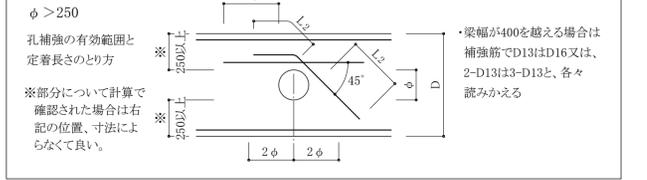
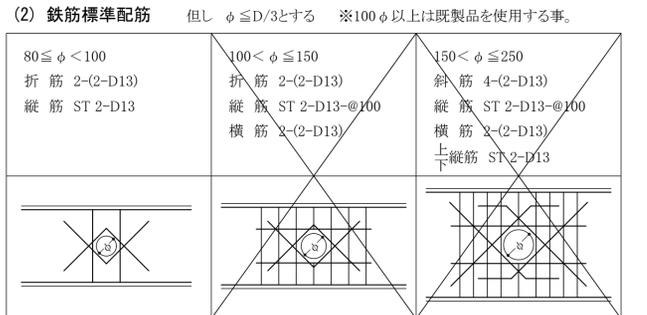
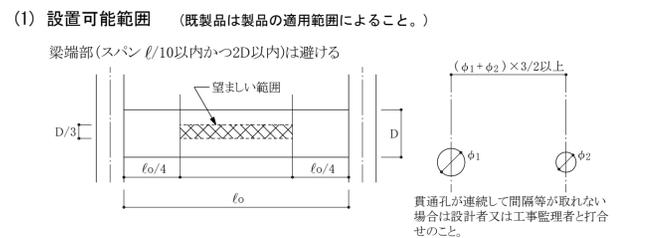
床版厚さD	周囲	斜め
D ≦ 150	各2-D13	各1-D13
150 < D ≦ 200	各2-D13	各2-D13
200 < D ≦ 300	各2-D19	各2-D16



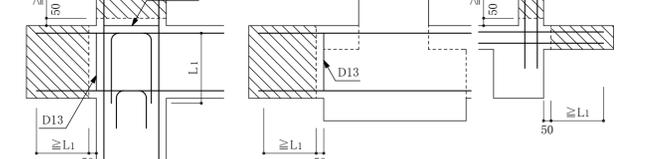
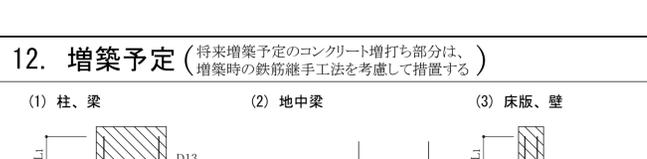
## 9. 壁



## 11. 梁貫通孔補強 (既製品を使用する。100φ以上)



## 12. 増築予定 (将来増築予定のコンクリート増打ち部分は、増築時の鉄筋継手工法を考慮して措置すること)



# 梁貫通孔補強材設計・施工標準仕様書

参考図 MAXリンプレンK型 設計・施工標準仕様書

## ◎標準図

1、一般事項  
 1) 本仕様書は、MAXリンプレンK型の標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。  
 2) 本仕様書に定めなき事項は、日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規程・同解説」、「鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規程・同解説」、「建築工事標準仕様書・同解説 (JASS5)」、「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」及び、「鉄骨鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。

2、適用範囲  
 1) 適応対応梁の構造  
 ・梁の構造種別 : 鉄筋コンクリート造及び、鉄骨鉄筋コンクリート造  
 ・コンクリート (Fc)  
   a あばら筋に普通鉄筋を用いた梁  $18 \leq Fc \leq 60N/mm^2$   
   b あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁  $21 \leq Fc \leq 100N/mm^2$   
 ・鉄筋  
   a 主筋 JIS・G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」  
   b あばら筋 JIS・G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」及び、建築基準法 37条二号の大臣認定を取得している  $685 \cdot 785 \cdot 1275N/mm^2$ 級の低強度鉄筋

2) 開孔径及び、開孔位置  
 ・孔径 (H) :  $H \leq D/3$  ただし、 $80 \leq H \leq 750$  (mm)  
 ・孔の水平方向中心間距離 (A) :  $A \geq 3H$   
 ・孔の鉛直方向中心間距離 (G) :  $G \geq 3H$  ただし、 $\Sigma H \leq D/4$  且つ、2開孔までとする。  
 ・柱際からの開孔距離  
   a 曲げ破壊先行型で設計された梁 柱際から開孔中心までの距離 (B) :  $B \geq D$   
   ただし、梁端降伏型の設計ではないことを確認した基礎梁は  $B \geq C$  C: 有効補強範囲  
   b セン断破壊先行型で設計された梁 柱際から開孔までの距離 (B') :  $B' \geq D$   
 ・孔上下位置 (Hc)  
    $450 \leq D < 700$   $Hc \geq 175$   
    $700 \leq D < 900$   $Hc \geq 200$   
    $900 \leq D$   $Hc \geq 250$   
   かつ  $Hc \geq D/5$

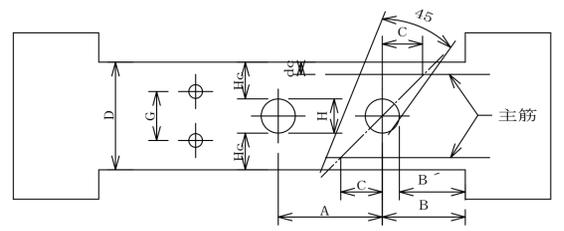


図1 貫通孔の適用開孔位置

3) 補強量の範囲  
 ・MAXリンプレンK型の補強筋比 (Pr)  
   a あばら筋に普通鉄筋を用いた梁  $Pr \leq 1.0$  (%)  
   b あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁  $Pr \leq 1.2$  (%)  
 ・有効補強範囲内のあばら筋の補強筋比 (Ps)  
   a あばら筋に普通鉄筋を用いた梁  $Ps \leq 1.2$  (%)  
   b あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁  $Ps \leq 1.0$  (%)  
 ・有効補強範囲内のせん断補強筋比 ( $\Sigma Pwo = Pr + Ps$ )  
   a あばら筋に普通鉄筋を用いた梁  $0.2 \leq \Sigma Pwo \leq 1.8$  (%)  
   b あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁  $0.2 \leq \Sigma Pwo \leq 2.2$  (%)

## ◎補強算定式

MAXリンプレンK型を用いた有孔梁の終局せん断耐力式 (修正広沢式)

$$Q_{su1} = \alpha \left\{ \frac{0.053Pt^{0.23}(18+Fc)}{M/Qd+0.12} \left(1 - 1.61 \frac{H}{D}\right) + 0.85 \sqrt{Pr \cdot r_{oy} + Ps \cdot s_{oy}} \right\} bj$$

$\alpha$  : 低減係数  
   あばら筋が普通鉄筋 ( $\alpha N = 1.00$ )  
   あばら筋が高強度鉄筋 ( $\alpha H = 0.94$ )  
 $Pt$  : 引張鉄筋比  
 $Fc$  : コンクリートの設計基準強度 (N/mm<sup>2</sup>)  
 $M/Qd$  : セン断スパン比で、3以上のときは3とする。  
 $H$  : 孔径 (mm)  
 $D$  : 梁の全せい (mm)  
 $Pr$  : MAXリンプレンK型の補強筋比  
 $r_{oy}$  : MAXリンプレンK型の規格降伏点強度 (785N/mm<sup>2</sup>) ただし  $r_{oy} \leq 25Fc$   
 $Ps$  : 有効範囲内の閉鎖形せん断補強筋のせん断補強筋比  
 $s_{oy}$  : あばら筋の降伏応力 (N/mm<sup>2</sup>)  
 $b$  : 梁幅 (mm)  
 $j$  : 応力中心間距離で、 $j = \frac{7}{8}d$  (mm) とする。  
 $d$  : 梁の有効せい (mm)

## ◎施工管理要領

1、施工に先立ち、設計図書又は、配筋図に基づき有効梁の補強計算を行ない、補強筋及び開孔位置を確認する。次にMAXリンプレンK型の枚数及び、必要あばら筋組数を確認する。  
 2、MAXリンプレンK型には製品の型式が記載されたラベルが取付けてあるので、適用な製品であるか又、変形や傷がないか、スペーサー部にキャップが付いているか必ず確認する。キャップは開孔径別に色分けを施している。  
 3、MAXリンプレンK型を直接地面に置くことは避け、各サイズ毎に整理し、雨・泥・油等で汚さないように保管する。

## ◎標準配筋図

1、MAXリンプレンK型の取り付け  
 1) MAXリンプレンK型はあばら筋の内側に取り付ける。3枚以上の場合は、中子筋に取り付け、MAXリンプレンK型の間隔は50mm以上とする。

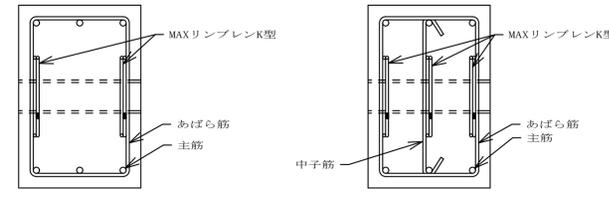


図2 MAXリンプレンK型の取り付け

2、開孔際あばら筋の基本配筋  
 1) 開孔際あばら筋は、一般あばら筋と同種同形状とし、基本組数を開孔径が、 $H < 250$ のとき開孔際1組、 $250 \leq H$ のとき開孔際2組とする。(図3、4参照)  
 2) 開孔際あばら筋は、開孔際から50mmのかぶり厚とし、2組目以上の場合50mmピッチとする。(図4参照)

3、孔上下部の補強  
 1) 開孔径が $250 \leq H$ のときは孔上下にあばら筋の設計ピッチ以内 ( $X'$ ) で幅止め筋を設ける。(図4参照)  
 2) 開孔径が $250 \leq H$ のとき、主筋とMAXリンプレンK型の端部間隔 (S) が300mm以上の場合は、孔上下にあばら筋の設計ピッチ以内 ( $X'$ ) であばら筋を設ける。(図5参照)  
 3) 横筋は設計あばら筋径と同等径以上を用い、定着長さは開孔際から40d以上とする。(図4、5参照)

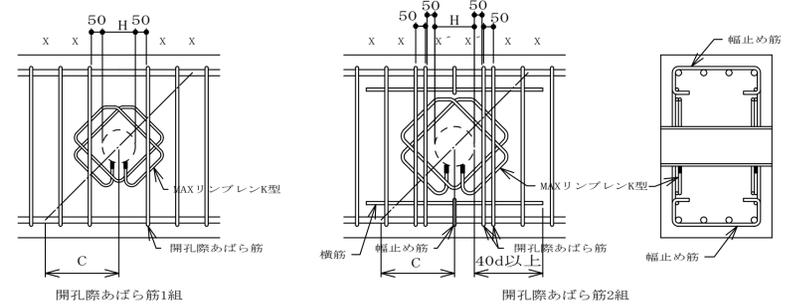


図3 開孔際あばら筋の基本配筋 H < 250 図4 開孔際あばら筋の基本配筋 250 ≤ H

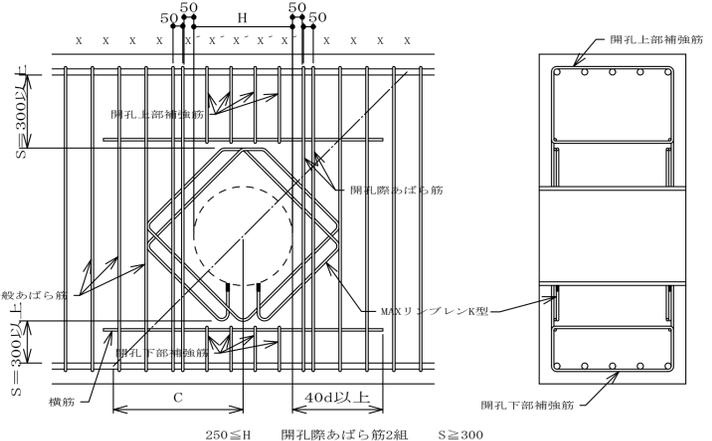


図5 大開孔の補強配筋例

4、MAXリンプレンK型の取り付け向き  
 1) MAXリンプレンK型は、必ずつめ部が上下方向になるように取り付ける。

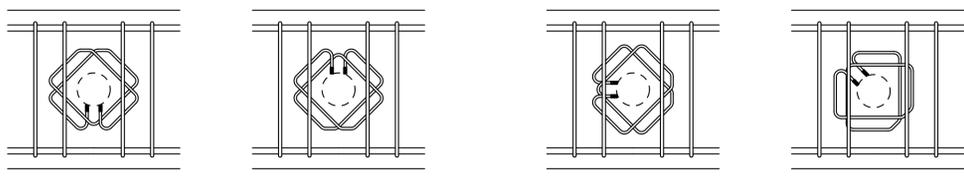
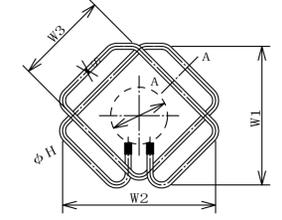


図6 MAXリンプレンK型の取付け向き

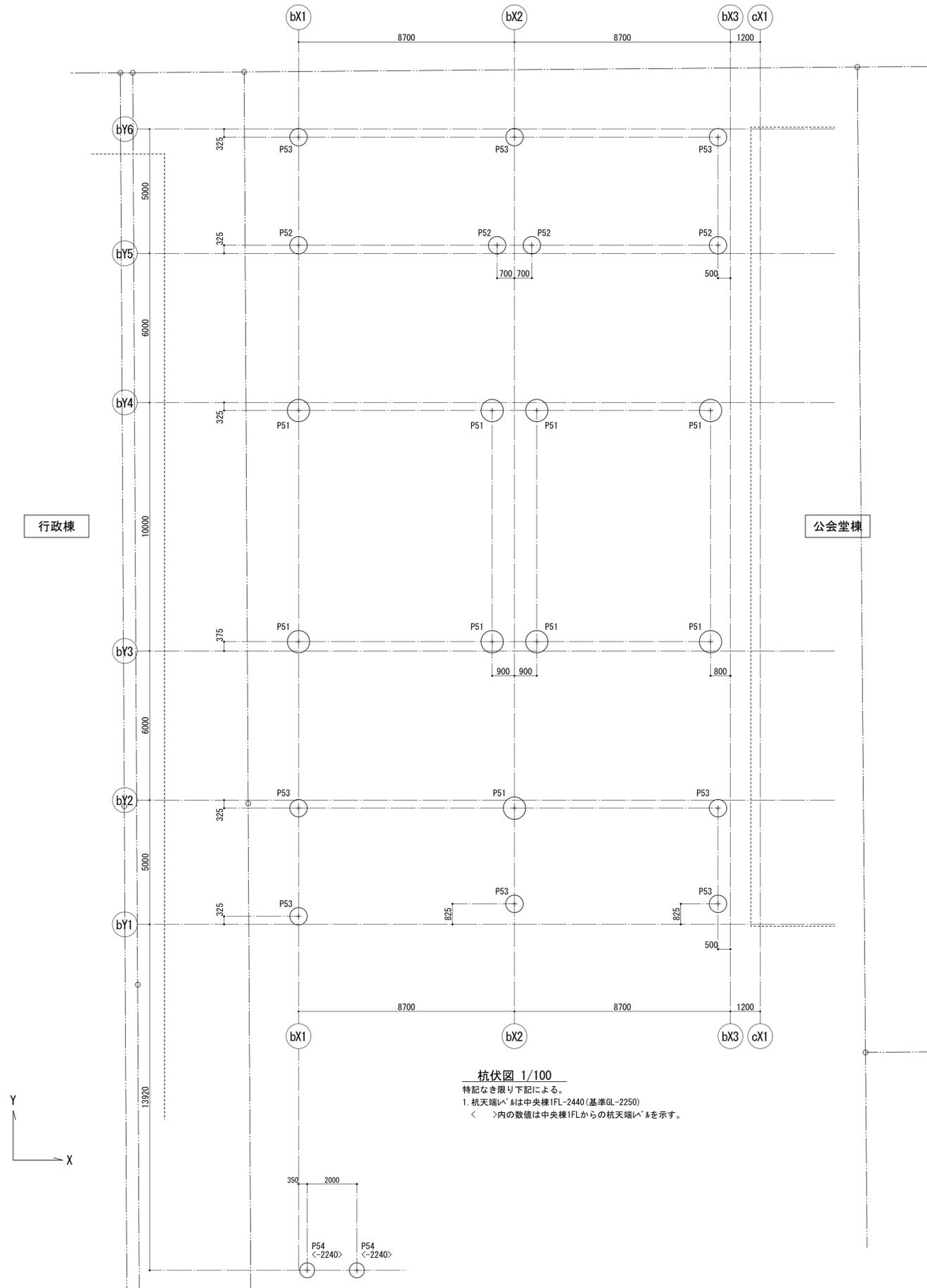
## ◎仕様

型式	開孔径 H	寸法			使用鉄筋	有効断面積 mm <sup>2</sup>	キャップ色別
		W1	W2	W3			
K-0806R K-0808R K-0810R K-0813R	φ80	253	292	180	S6	89.6	赤
		264	298	180	S8	140.0	
		289	319	190	S10	201.8	
		296	334	200	S13	358.4	
K-1006R K-1008R K-1010R K-1013R	φ100	283	327	205	S6	89.6	黒
		294	334	205	S8	140.0	
		320	354	215	S10	201.8	
		327	369	225	S13	358.4	
K-1206R K-1208R K-1210R K-1213R	φ125	313	363	230	S6	89.6	緑
		325	369	230	S8	140.0	
		350	389	240	S10	201.8	
		357	404	250	S13	358.4	
K-1506R K-1508R K-1510R K-1513R	φ150	350	405	250	S16	561.7	白
		344	398	255	S6	89.6	
		355	404	255	S8	140.0	
		380	425	265	S10	201.8	
K-1706R K-1708R K-1710R K-1713R	φ175	388	440	275	S13	358.4	赤
		380	441	275	S16	561.7	
		374	433	280	S6	89.6	
		385	440	280	S8	140.0	
K-2006R K-2008R K-2010R K-2013R	φ200	411	460	290	S10	201.8	黒
		418	475	300	S13	358.4	
		411	476	300	S16	561.7	
		404	469	305	S6	89.6	
K-2508R K-2510R K-2513R	φ250	416	475	305	S8	140.0	白
		441	495	315	S10	201.8	
		448	510	325	S13	358.4	
		441	511	325	S16	561.7	
K-3008R K-3010R K-3013R	φ300	500	567	365	S8	140.0	黒
		525	587	375	S10	201.8	
		532	602	385	S13	358.4	
		525	603	385	S16	561.7	
K-3508R K-3510R K-3513R	φ350	600	680	440	S8	140.0	白
		625	701	450	S10	201.8	
		632	716	460	S13	358.4	
		625	716	460	S16	561.7	
K-4010R K-4013R K-4016R	φ400	675	758	490	S8	140.0	黒
		700	778	500	S10	201.8	
		707	793	510	S13	358.4	
		700	794	510	S16	561.7	
K-4510R K-4513R K-4516R	φ450	761	849	550	S10	201.8	白
		768	864	560	S13	358.4	
		761	865	560	S16	561.7	
		850	941	610	S10	201.8	
K-5010R K-5013R K-5016R	φ500	857	956	620	S13	358.4	黒
		850	957	620	S16	561.7	
		911	1,012	660	S10	201.8	
		918	1,027	670	S13	358.4	
K-5510R K-5513R K-5516R	φ550	911	1,028	670	S16	561.7	白
		986	1,089	710	S10	201.8	
		993	1,104	720	S13	358.4	
		986	1,104	720	S16	561.7	
K-6010R K-6013R K-6016R	φ600	1,046	1,160	760	S10	201.8	黒
		1,053	1,175	770	S13	358.4	
		1,046	1,176	770	S16	561.7	
		1,135	1,252	820	S10	201.8	
K-6510R K-6513R K-6516R	φ650	1,142	1,267	830	S13	358.4	白
		1,135	1,268	830	S16	561.7	
		1,196	1,323	870	S10	201.8	
		1,203	1,338	880	S13	358.4	
K-7010R K-7013R K-7016R	φ700	1,196	1,339	880	S16	561.7	黒
		1,257	1,394	920	S10	201.8	
		1,264	1,409	930	S13	358.4	
		1,257	1,409	930	S16	561.7	



・鉄筋の材質 KSS785-K (認定番号 MSRB-0004)  
 ・有効断面積 (ar) はA-A部の断面×√2

※コンクリート梁貫通補強は、本工法と同等の性能のものを採用することとする。



杭伏図 1/100

特記なき限り下記による。  
 1. 杭天端は中央棟1FL-2440 (基準GL-2250)  
 < >内の数値は中央棟1FLからの杭天端を示す。

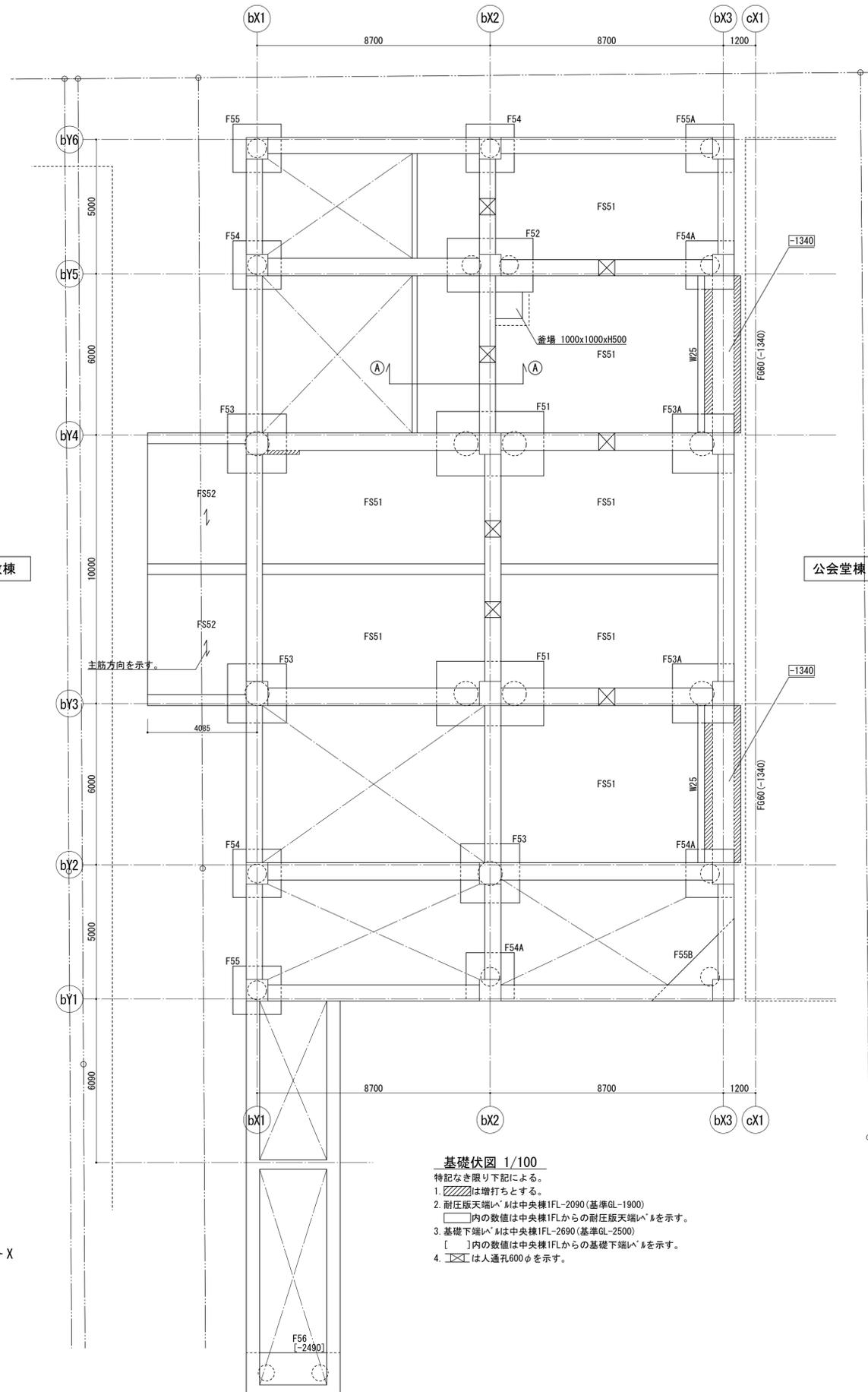
杭リスト

工法：プレキャスト杭大根固め工法 ( $\alpha \geq 315$ ) とする。

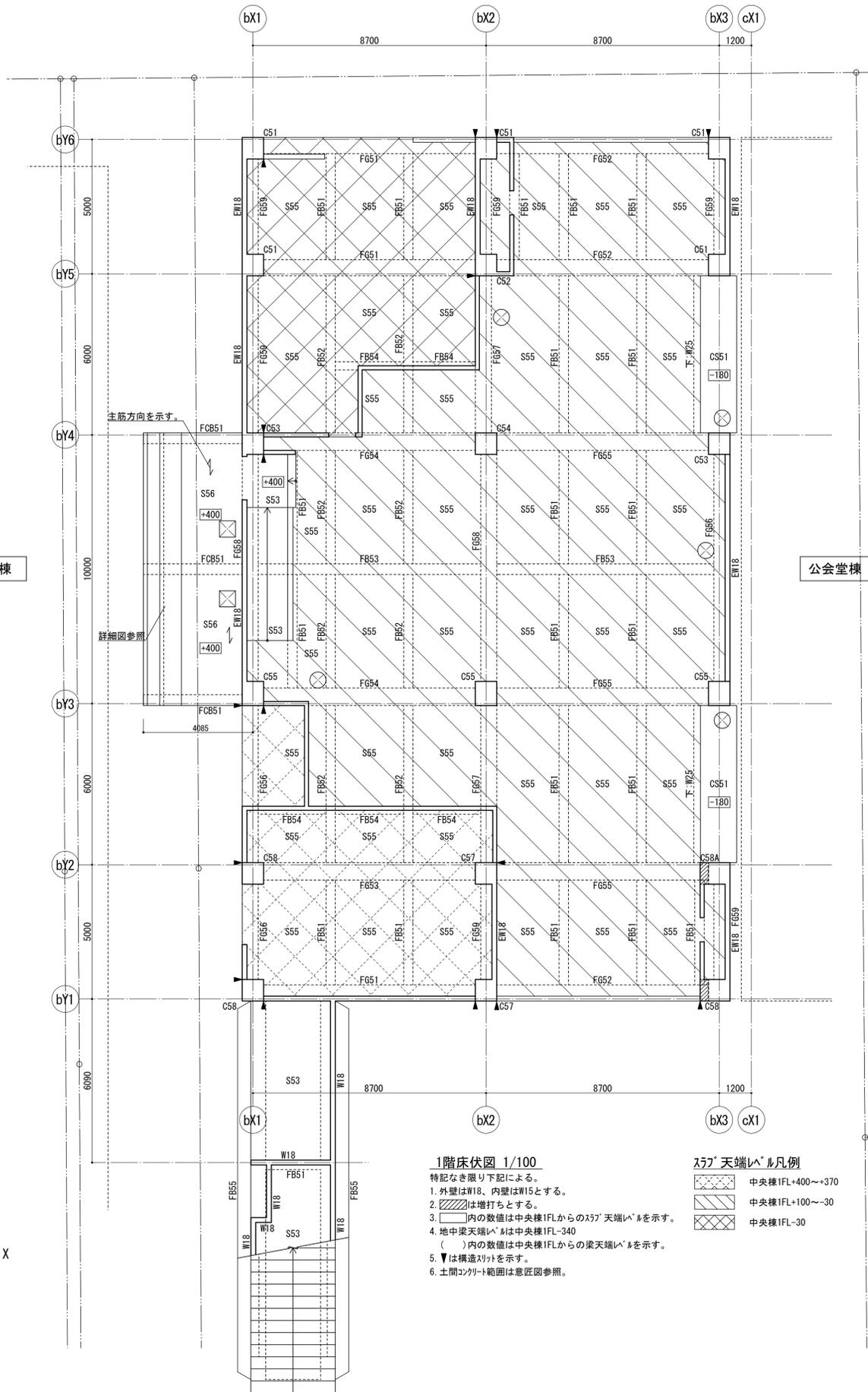
符号	杭径	杭実長	上杭	中杭 1	中杭 2	下杭	本数	長期許容支持力	備考
P51	φ900	35m	SC杭105φ900 L=5m (SKK490 t=12.0 105N)	PHCφ900 (A種) L=10m	PHCφ900 (A種) L=10m	PHCφ900 (A種) L=10m	9	Ra=3900kN/本	
P52	φ700	35m	SC杭105φ700 L=5m (SKK490 t=12.0 105N)	PHCφ700 (B種) L=10m	PHCφ700 (A種) L=10m	PHCφ700 (A種) L=10m	4	Ra=2300kN/本	
P53	φ700	35m	SC杭105φ700 L=5m (SKK490 t=14.0 105N)	PHCφ700 (B種) L=10m	PHCφ700 (A種) L=10m	PHCφ700 (A種) L=10m	8	Ra=2300kN/本	
P54	φ600	35m	SC杭105φ600 L=5m (SKK490 t=12.0 105N)	PHCφ600 (B種) L=10m	PHCφ600 (A種) L=10m	PHCφ600 (A種) L=10m	2	Ra=1700kN/本	

計 23本

■注記)	管理建築士	横浜市建築局	工事名	金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)
	一級建築士	登録第166404号	図面名称	杭伏図・杭リスト
	吉村久夫	年月日 平成28年8月	縮尺 A1=1/100 A3=1/200	図面枚数
		設計者	株式会社 国設計	図面番号 S-C05



**基礎伏図 1/100**  
 特記なき限り下記による。  
 1. 耐圧版天端レベルは中央棟1FL-2090(基準GL-1900)  
 2. 耐圧版天端レベルは中央棟1FLからの耐圧版天端レベルを示す。  
 3. 基礎下端レベルは中央棟1FL-2690(基準GL-2500)  
 4. 基礎下端レベルは中央棟1FLからの基礎下端レベルを示す。  
 5. 内通孔600φを示す。

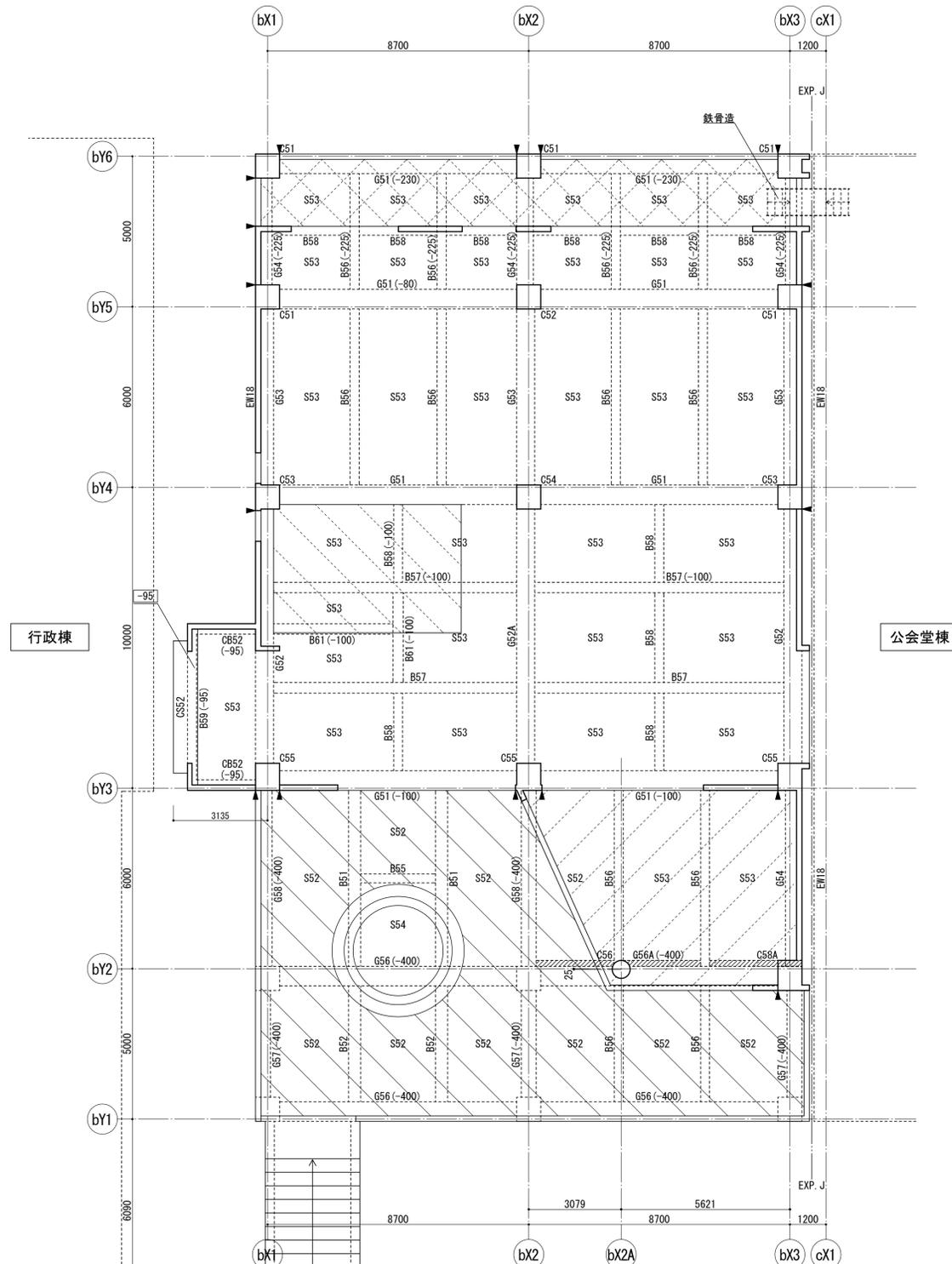


**1階床伏図 1/100**  
 特記なき限り下記による。  
 1. 外壁はW18、内壁はW15とする。  
 2. は増打ちとする。  
 3. 内の数値は中央棟1FLからのスラブ天端レベルを示す。  
 4. 地中梁天端レベルは中央棟1FL-340  
 ( )内の数値は中央棟1FLからの梁天端レベルを示す。  
 5. ▼は構造スリットを示す。  
 6. 土間コンクリート範囲は意匠図参照。

**スラブ天端レベル凡例**

- 中央棟1FL+400~+370
- 中央棟1FL+100~-30
- 中央棟1FL-30

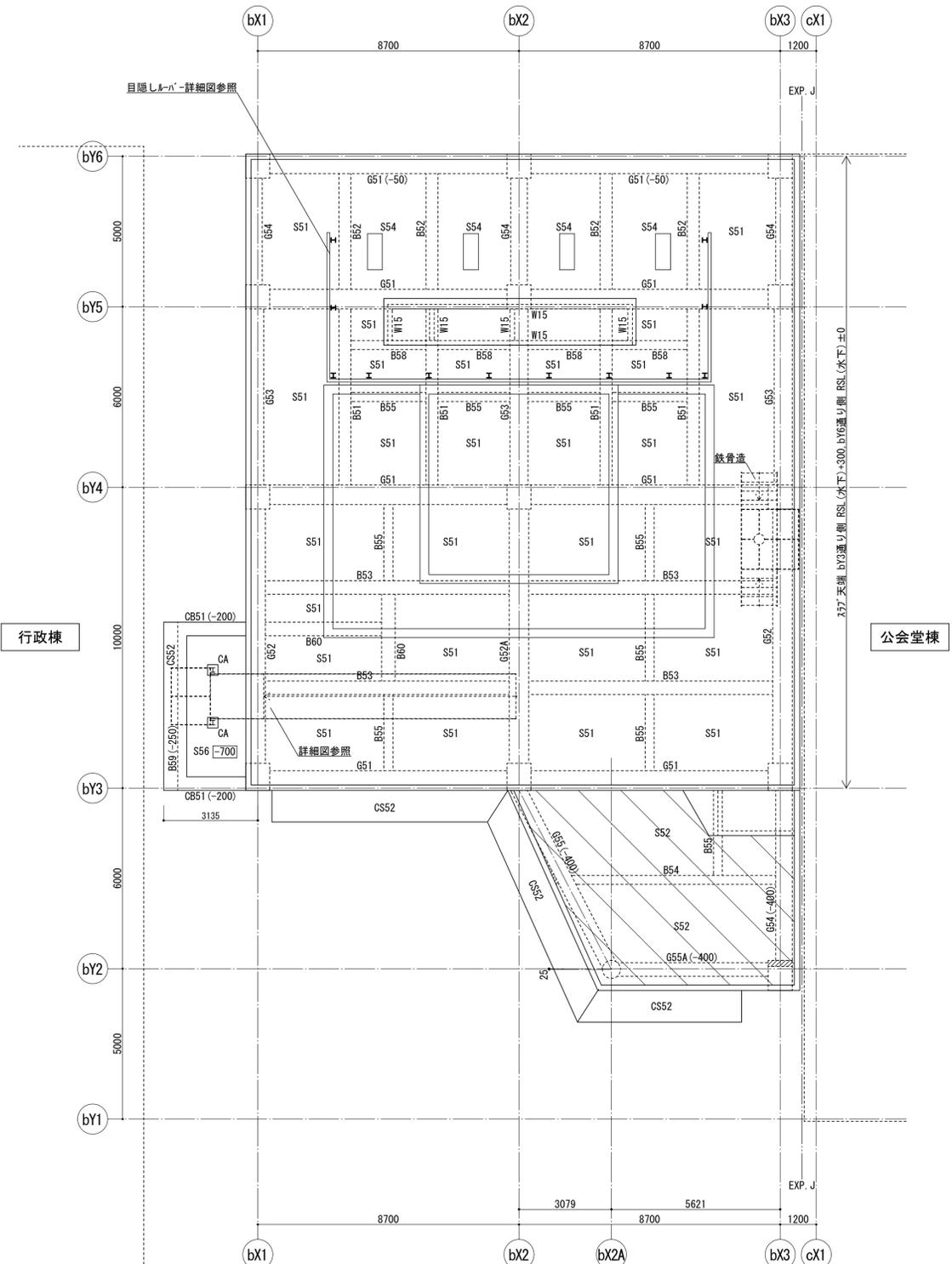
■注記	管理建築士 一級建築士 登録第166404号 吉村久夫	横浜市建築局 年月日 平成28年8月 縮尺 A1=1/100 A3=1/200 設計者 株式会社 国設計	工事名 金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事) 図面名称 基礎伏図・1階床伏図 図面枚数 1 図面番号 S-C06
-----	--------------------------------------	---	--



**2階床伏図 1/100**  
 特記なき限り下記による。  
 1. 外壁はW18、内壁はW15とする。  
 2. 斜線は増打ちとする。  
 3. 37°天端レールは2FL-20  
 ( )内の数値は2FLからの37°天端レールを示す。  
 4. 梁天端レールは2FL-30  
 ( )内の数値は2FLからの梁天端レールを示す。  
 5. 区民庁の範囲の小梁天端レールは37°勾配を考慮して決めること。  
 ▼は構造スリットを示す。

**37°天端レール凡例**

	2FL-100
	2FL-170~200
	2FL-150~300
	2FL-250



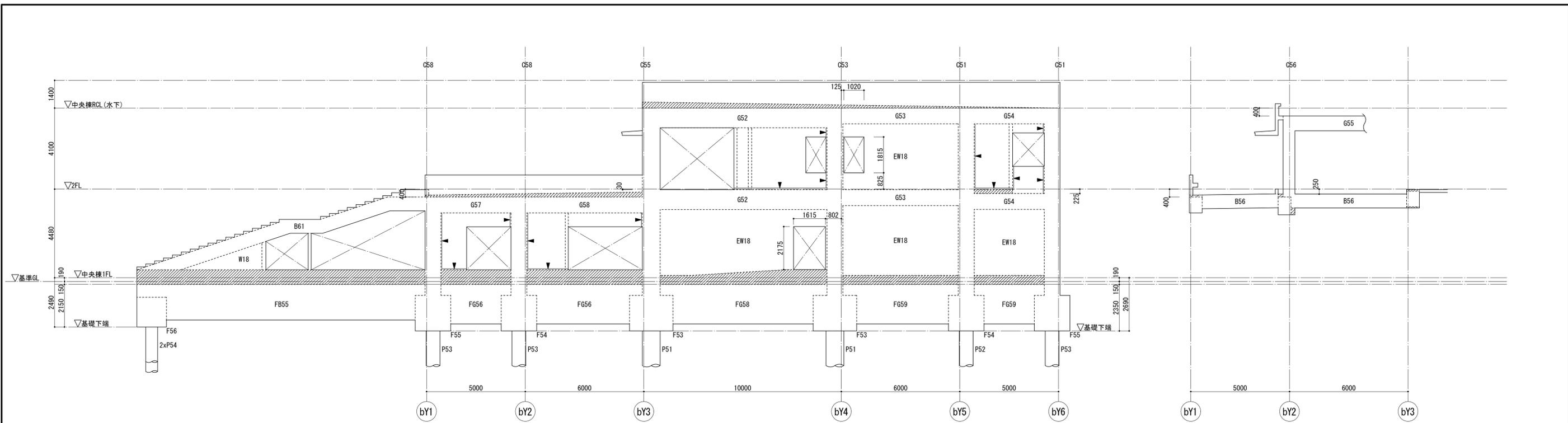
**R2階床伏図 1/100**  
 特記なき限り下記による。  
 1. ( )内の数値は中央棟RCL(水下)からの37°天端レールを示す。  
 2. 大梁天端レールは中央棟RCL(水下)±0  
 ( )内の数値は中央棟RCL(水下)からの大梁天端レールを示す。  
 小梁天端レールは37°勾配を考慮して決めること。

**37°天端レール凡例**

	中央棟RCL(水下)-320~-400
--	---------------------

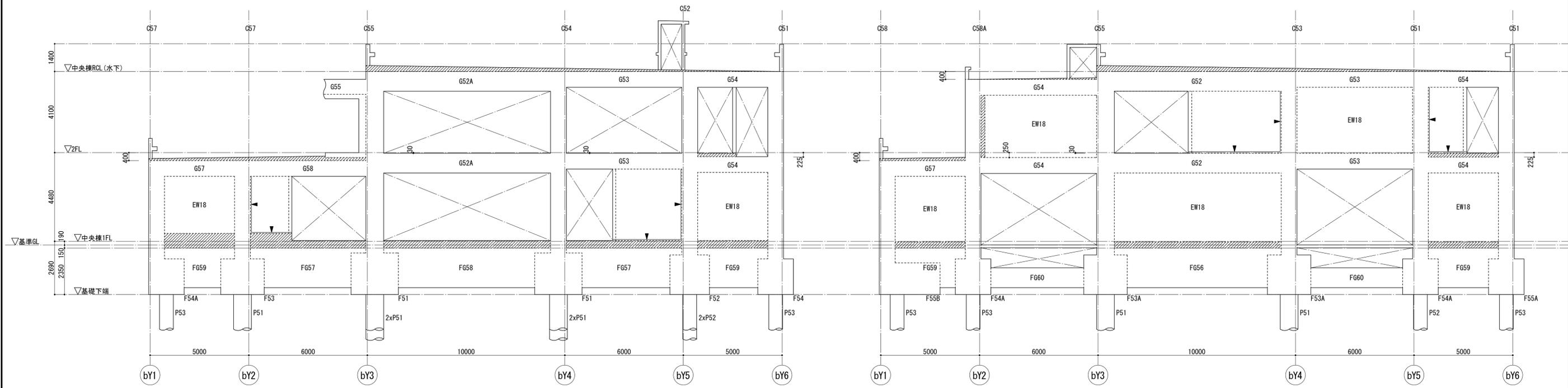
■注記)	管理建築士	横浜市建築局	工事名	金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)
	一級建築士 登録第166404号 吉村久夫			図面名称
	年月日	平成28年8月	縮尺	A1=1/100 A3=1/200
	設計者	株式会社 国設計	図面枚数	1/1
	図面番号	S-C07	図面種類	構造





bX1通り軸組図 1/100

bX2A通り軸組図 1/100

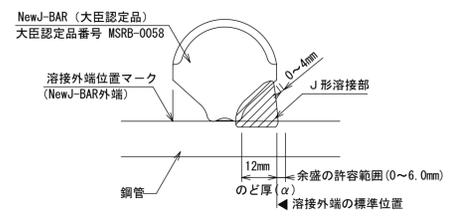
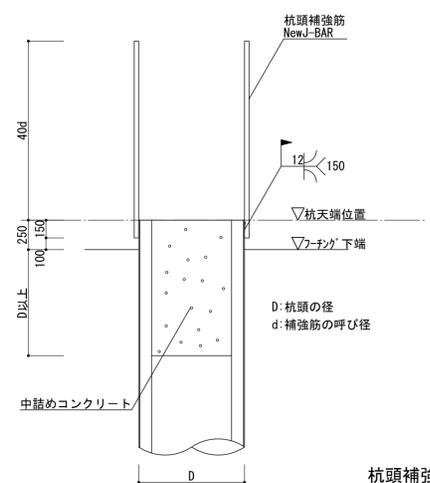
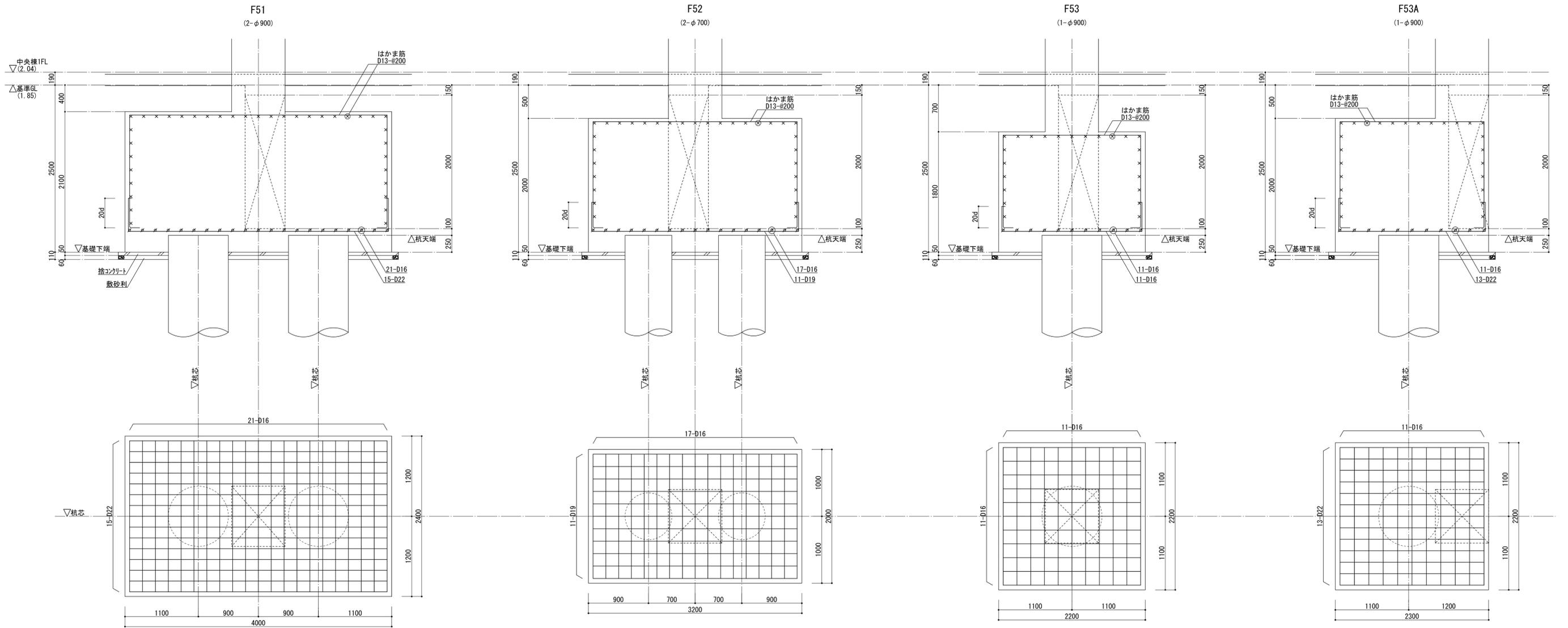


bX2通り軸組図 1/100

bX3通り軸組図 1/100

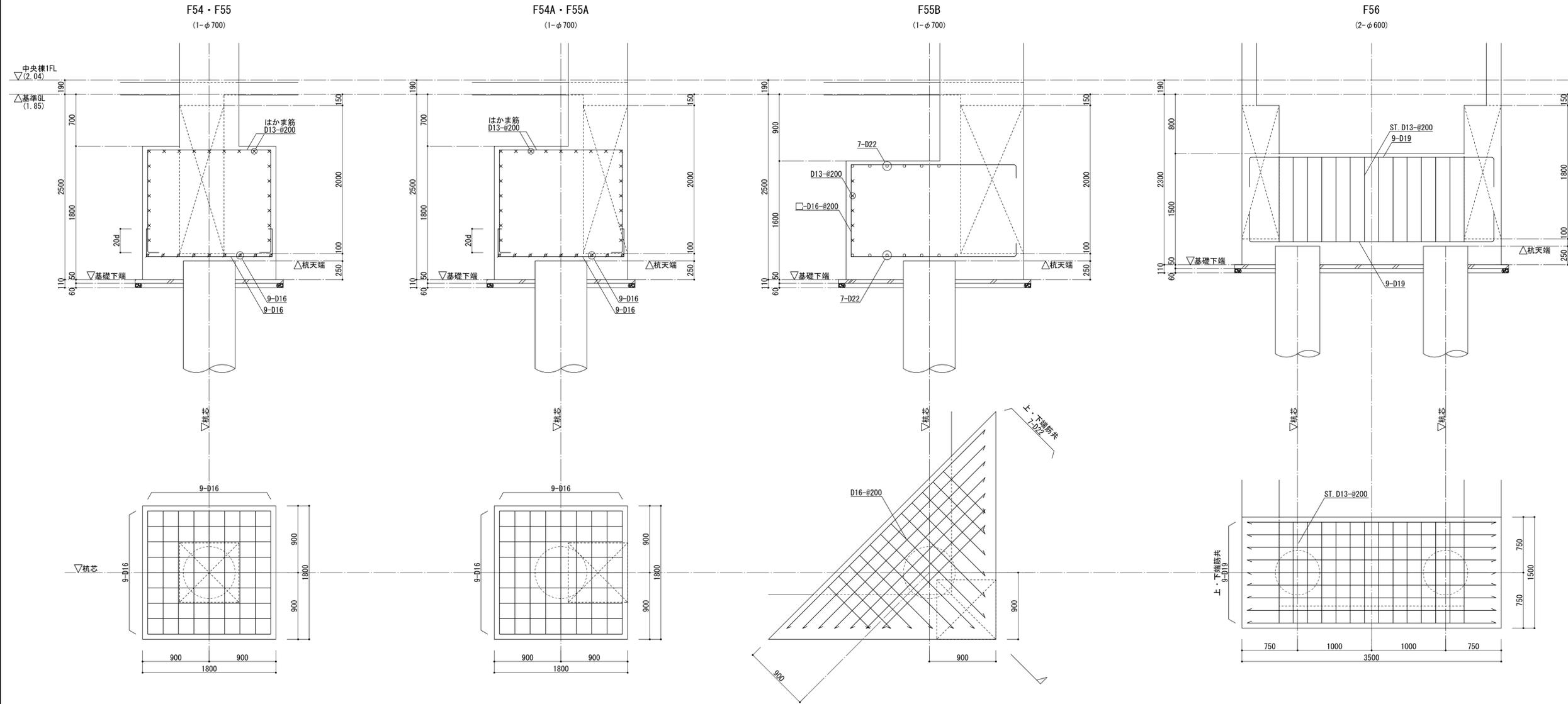
特記事項  
 特記なき限り下記による。  
 1. 外壁はW18、内壁はW15とする。  
 2. 斜線は増打ちを示す。  
 3. 印は構造引継を示す。

■注記)	管理建築士	横浜市建築局	工事名	金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)
	一級建築士 登録第166404号 吉村久夫		図面名称	軸組図(2)
	年月日	平成28年8月	縮尺	A1=1/100 A3=1/200
	設計者	株式会社 国設計	図面枚数	図面枚数
			図面番号	S-C09



符号	杭頭補強筋
P51	21-WD38N
P52	16-WD38N
P53	18-WD38N
P54	13-WD38N

杭頭補強要領 1/30



■注記)

管理建築士 一級建築士 登録第166404号 吉村久夫	横浜市建築局	工事名 金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)
年月日 平成28年8月	縮尺 A1=1/30 A3=1/60	図面名称 基礎リスト(2)
設計者 株式会社 国設計	施設番号	構造
	年度	図面枚数
	棟数	図面番号 S-C11

地中梁断面リスト 1/30 特記なき限り 1. 中止筋 D10-#1000 2. 中吊り筋受け筋 D10-#1000 3. [ ] 内は加工の柱面からの寸法を示す。

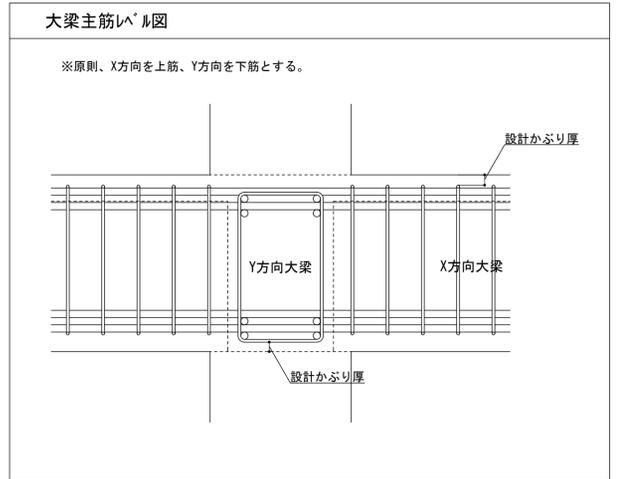
符号	FG51			FG52			FG53			FG54			FG55			FG56
	外端(bX1端)	中央	内端(bX2端)	内端(bX2端)	中央	外端(bX3端)	外端(bX1端)	中央	内端(bX2端)	外端(bX1端)	中央	内端(bX2端)	内端(bX2端)	中央	外端(bX3端)	全断面
位置																
▽基準GL																
断面	600 x 2 000			600 x 2 000			650 x 2 000			650 x 2 000			650 x 2 000			600 x 2 000
上筋	8-D29	6-D29	6-D29	6-D29	8-D29	10-D29	8-D29	7-D29	7-D29	11-D29	8-D29	8-D29	8-D29	13-D29	15-D29	5-D29
下筋	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	7-D29	6-D29	6-D29	6-D29	8-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	7-D29	5-D29
S T	□-D13-#150			□-D13-#150			□-D13-#150			□-D13-#150			□-D13-#100			□-D13-#150
腹筋	10-D13			10-D13			10-D13			10-D13			10-D13			10-D13
符号	FG57			FG58		FG59	FG60									
位置	bY2・bY5端	中央	bY3・bY4端	端部	中央	全断面	全断面									
▽基準GL																
断面	600 x 2 000			600 x 2 000		500 x 2 000	600 x 1 000									
上筋	6-D29	8-D29	10-D29	10-D29	6-D29	5-D29	6-D29									
下筋	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	8-D29	5-D29	6-D29									
S T	□-D13-#150			□-D13-#150		□-D13-#150	□-D13-#150									
腹筋	10-D13			10-D13		10-D13	4-D13									
符号	FB51	FB52	FB53		FB54	FB55		FB56	FCB51			地中梁上端増打要領 1/30				
位置	全断面	全断面	外端・中央	内端	全断面	端部	中央	全断面	全断面							
▽基準GL																
断面	350 x 650	350 x 650	400 x 2 000		300 x 500	550 x 1 800		500 x 1 800	400 x 2 000							
上筋	3-D22	4-D22	5-D25	6-D25	2-D19	6-D25	6-D25	4-D25	6-D25							
下筋	3-D22	4-D22	5-D25	4-D25	2-D19	8-D25	12-D25	4-D25	4-D25							
S T	□-D10-#150	□-D10-#150	□-D13-#200		□-D10-#200	□-D13-#200		□-D13-#200	□-D13-#200							
腹筋	2-D10	2-D10	10-D13		-	10-D13		10-D13	10-D13							

■注記

管理建築士 一級建築士 登録第166404号 吉村久夫	横浜市建築局	工事名 金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)
年月日 平成28年8月	縮尺 A1=1/30 A3=1/60	図面名称 地中梁断面リスト
設計者 株式会社 国設計	図面枚数 構造	図面番号 S-C12

柱断面リスト 1/30 特記なき限り 1. 巾止筋 D10-#500 2. S13はKSS785を示す。3. HOOPの加工方法は溶接型とする。(柱梁接合部は除く。) 4. 柱梁接合部は□-D13-#100とする。(地中梁部は□-D13-#150とする。) 5. 最上階柱頭の主筋は全180° フックとする。

符号	C51	C52	C53	C54	C55	C56	C57	C58	C58A
2階									
断面	800 x 800	800 x 800	800 x 800	800 x 800	800 x 900	600φ			800 x 800
主筋	18-D25	18-D25	18-D25	18-D25	26-D25	12-D22			16-D25
HOOP	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	○-D13-#100			□-D13-#100
1階									
断面	800 x 800	800 x 800	800 x 800	800 x 800	800 x 900		800 x 800	800 x 800	800 x 800
主筋	22-D25	18-D25	18-D25	18-D25	26-D25		24-D25	24-D25	26-D25
HOOP	□-S13-#100	□-S13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100		□-D13-#100	□-S13-#100	□-S13-#100



小梁断面リスト 1/30 特記なき限り 1. 巾止筋 D10-#1000 2. 中吊り筋受け筋 D10-#1000

符号	B51			B52		B53			B54		B55	B56	B57			B58	B59	
	外端	中央	内端	内端・中央	外端	外端	中央	内端	端部	中央	全断面	全断面	外端	中央	内端	全断面	全断面	
位置																		
断面	400 x 700			400 x 700		500 x 800			350 x 700		300 x 500	300 x 700	350 x 850			300 x 500	300 x 600	
上筋	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	4-D25	5-D25	6-D25	8-D25	3-D22	3-D22	3-D19	3-D22	3-D22	4-D22	6-D22	2-D19	3-D22	
下筋	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25	6-D25	7-D25	6-D25	4-D22	5-D22	3-D19	3-D22	4-D22	5-D22	4-D22	2-D19	3-D22	
S T	□-D13-#200			□-D13-#200		□-D13-#200			□-D10-#150		□-D10-#200	□-D10-#200	□-D10-#150			□-D10-#200	□-D10-#200	
腹筋	2-D10			2-D10		2-D10			2-D10		—	2-D10	2-D10			—	2-D10	
符号	B60	B61															CB51	CB52
位置	全断面	全断面															全断面	全断面
断面	450 x 650	350 x 700															450 x 650	350 x 700
上筋	5-D25	5-D25															5-D25	5-D25
下筋	4-D25	4-D25															4-D25	4-D25
S T	□-D13-#200	□-D10-#150															□-D13-#200	□-D10-#150
腹筋	2-D10	2-D10															2-D10	2-D10

■注記)

管理建築士 一級建築士 登録第166404号 吉村久夫	横浜市建築局	工事名 金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)
年月日 平成28年8月	縮尺 A1=1/30 A3=1/60	図面名称 柱・小梁断面リスト
設計者 株式会社 国設計	図面枚数 構造	図面番号 S-C13

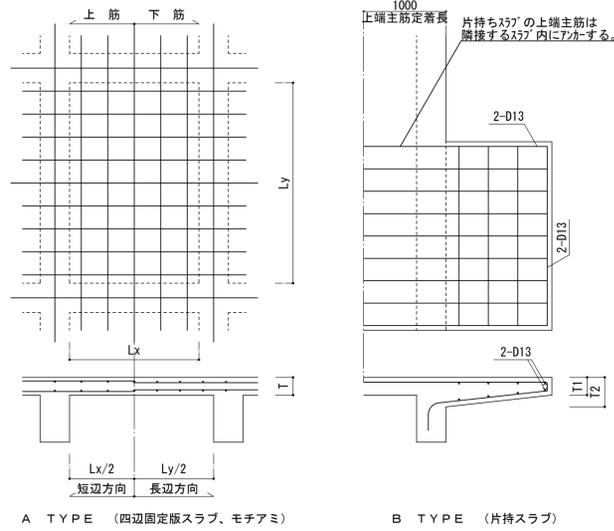
大梁断面リスト 1/30

特記なき限り 1. 巾止筋 D10-#1000 2. 中吊り筋受け筋 D10-#1000 3. [ ] 内は加付の柱面からの寸法を示す。

符号	G51			G52			G52A			G53			G54	G55			G55A		
	外端	中央	内端	Y3端	中央	Y4端	Y3端	中央	Y4端	Y4端	中央	Y5端	全断面	Y2端	中央	Y3端	全断面		
R階																			
断面	650 x 800			650 x 1 000			650 x 1 000			600 x 800			550 x 800	500 x 750			450 x 700		
上筋	8-D25	8-D25	13-D25	9-D25	9-D25	13-D25	10-D25	8-D25	13-D25	9-D25	8-D25	8-D25	5-D25	4-D25	5-D25	8-D25	5-D22		
下筋	8-D25	8-D25	11-D25	6-D25	8-D25	8-D25	9-D25	12-D25	9-D25	6-D25	6-D25	6-D25	5-D25	4-D25	5-D25	5-D25	4-D22		
S T	□-D13-#100			□-D13-#100			□-D13-#100			□-D13-#200			□-D13-#200	□-D13-#200			□-D13-#200		
腹筋	2-D10			4-D10			4-D10			2-D10			2-D10	2-D10			2-D10		
2階														(Diagrams for G55 and G55A are omitted as they are covered by the full section diagram in the R floor row)					
断面	650 x 800			600 x 1 000			600 x 1 000			600 x 800			550 x 800						
上筋	11-D25	7-D25	11-D25	9-D25	6-D25	9-D25	9-D25	6-D25	9-D25	7-D25	6-D25	7-D25	6-D25						
下筋	11-D25	7-D25	11-D25	6-D25	8-D25	6-D25	6-D25	8-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	5-D25						
S T	□-D13-#150			□-D13-#200			□-D13-#200			□-D13-#200			□-D13-#200						
腹筋	2-D10			4-D10			4-D10			2-D10			2-D10						
符号	G56			G56A			G57	G58											
位置	外端	中央	内端	Y2端	中央	Y3端	全断面	Y2端	中央	Y3端									
R階	(Diagrams for G56, G56A, G57, and G58 are omitted as they are covered by the full section diagram in the 2 floor row)																		
断面				650 x 800			650 x 900			500 x 800	500 x 800								
上筋				8-D25	9-D25	13-D25	13-D25	9-D25	13-D25	5-D25	5-D25	5-D25	7-D25						
下筋				7-D25	8-D25	8-D25	7-D25	9-D25	8-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25						
S T	□-D13-#100			□-D13-#100			□-D13-#200	□-D13-#200											
腹筋	2-D10			4-D10			2-D10	2-D10											

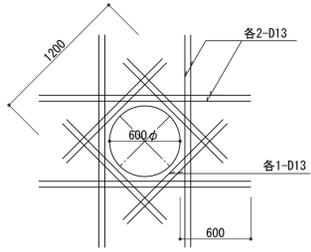
■注記)

管理建築士 一級建築士 登録第166404号 吉村久夫	横浜市建築局	工事名 金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)
年月日 平成28年8月	縮尺 A1=1/30 A3=1/60	図面名称 大梁断面リスト
設計者 株式会社 国設計	図面枚数 構造	図面番号 S-C14



A TYPE (四辺固定版スラブ、モチアミ)

B TYPE (片持スラブ)



床開口補強要領 1/30

スラブリスト

符号	タイプ	スラブ厚	位置	短辺方向		長辺方向		備考
				全断面	全断面	全断面	全断面	
S51	A	150	上筋 下筋	D13 -#200 D10D13-#200	D10D13-#200	D10 -#200	D10 -#200	モチアミ
S52	A	150	上筋 下筋	D10D13-#200	D10 -#200	D10 -#200	D10 -#200	モチアミ
S53	A	150	上筋 下筋	D10D13-#200	D10 -#200	D10 -#250	D10 -#250	モチアミ
S54	A	150	上筋 下筋	D13 -#200	D13 -#200	D13 -#200	D13 -#200	モチアミ
S55	A	170	上筋 下筋	D10D13-#200	D10 -#200	D10 -#200	D10 -#200	モチアミ
S56	A	200	上筋 下筋	D13 -#150	D13 -#150	D13 -#200	D13 -#200	モチアミ

片持スラブリスト

符号	タイプ	スラブ厚	位置	短辺方向		長辺方向		備考
				全断面	全断面	全断面	全断面	
CS51	B	200	上筋 下筋	D13 -#100	D13 -#250	D13 -#250	D13 -#250	先端 2-D13
GS52	B	150	上筋 下筋	D13 -#200	D10 -#200	D10 -#200	D10 -#200	先端 2-D13

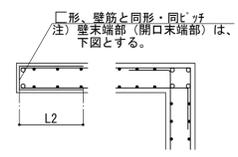
耐圧版リスト

符号	タイプ	スラブ厚	位置	短辺方向		長辺方向		備考
				全断面	全断面	全断面	全断面	
FS51	A	250	上筋 下筋	D13 -#200	D13 -#250	D13 -#250	D13 -#250	耐圧版
FS52	A	250	上筋 下筋	D13 -#100	D13 -#200	D13 -#200	D13 -#200	耐圧版

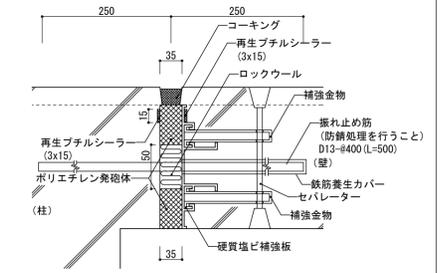
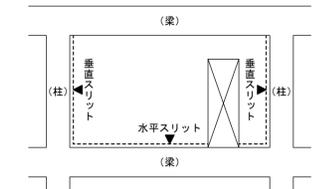
壁リスト 1/30 特記なき限り 1. 巾止筋 D10-#1000以内とする。

EW18	開口補強筋	縦筋 4-D16 横筋 4-D16 斜筋 1-D13
W25	開口補強筋	縦筋 2-D16 横筋 2-D16 斜筋 2-D13
W18	開口補強筋	縦筋 2-D16 横筋 2-D16 斜筋 1-D13
W15	開口補強筋	縦筋 2-D13 横筋 2-D13 斜筋 1-D13
CBW	開口補強筋	縦筋 1-D13 横筋 1-D13 斜筋 -

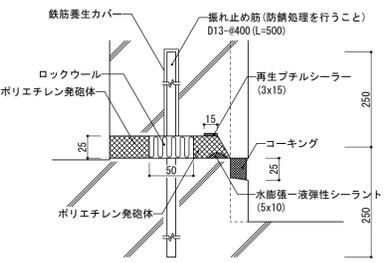
端部・コーナ部配筋要領



構造スリット要領

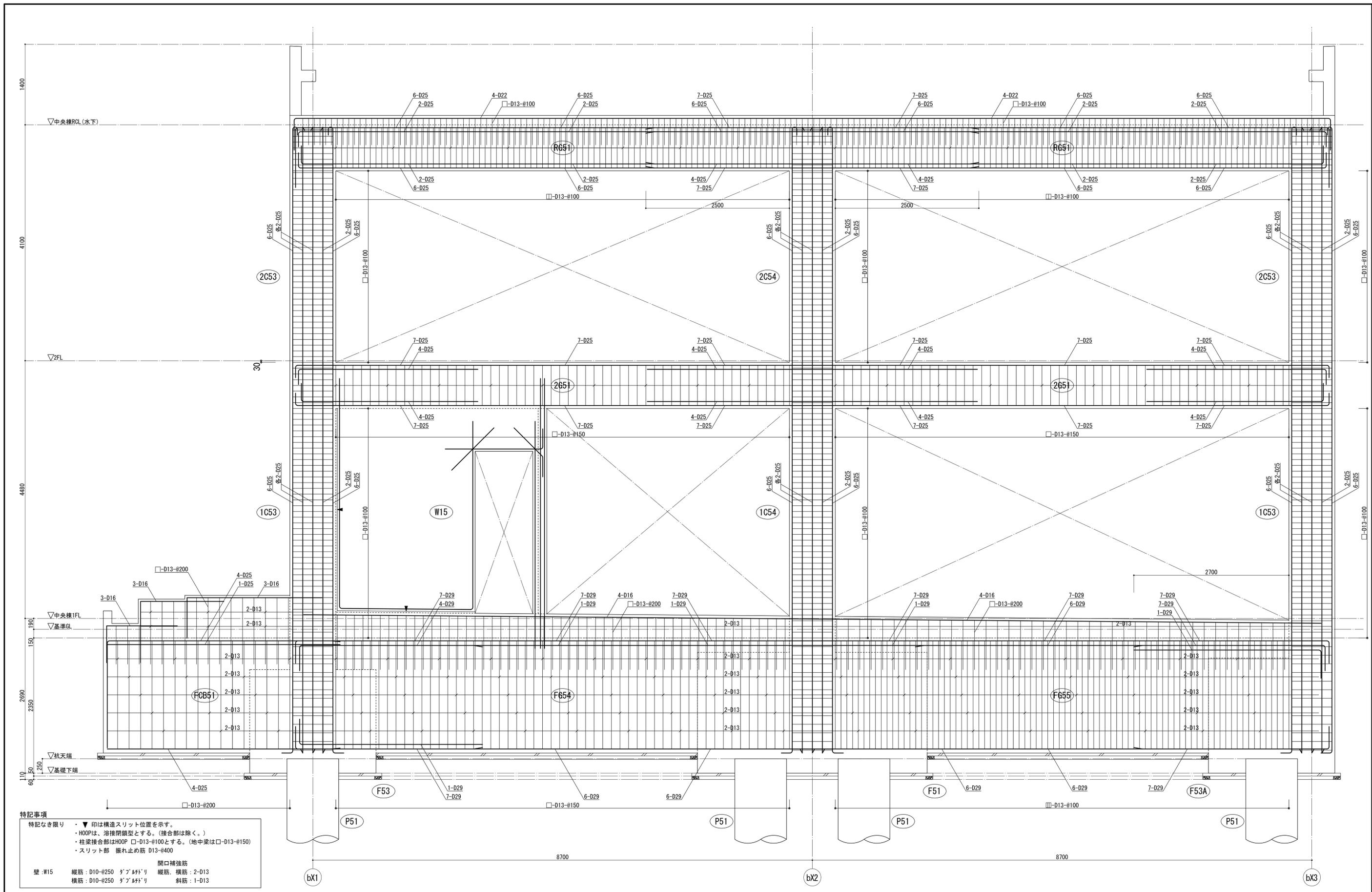


垂直スリット要領図



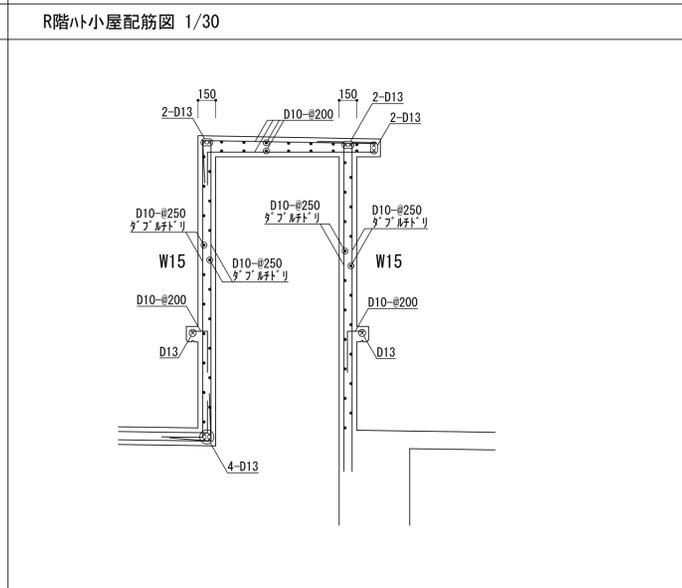
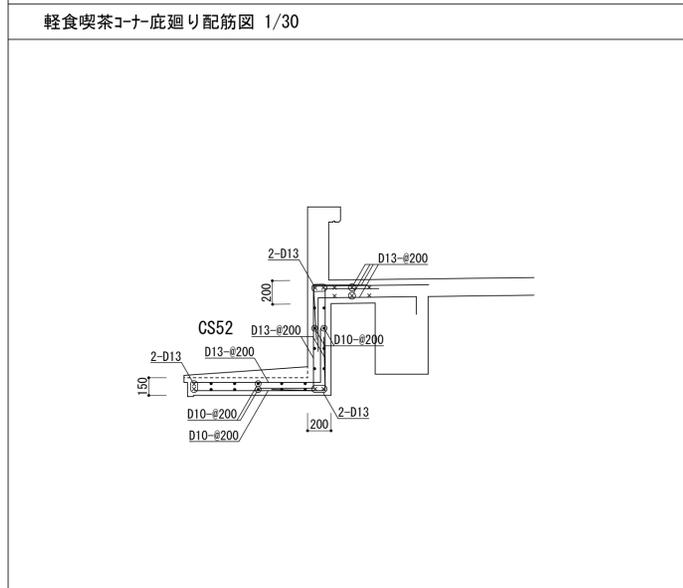
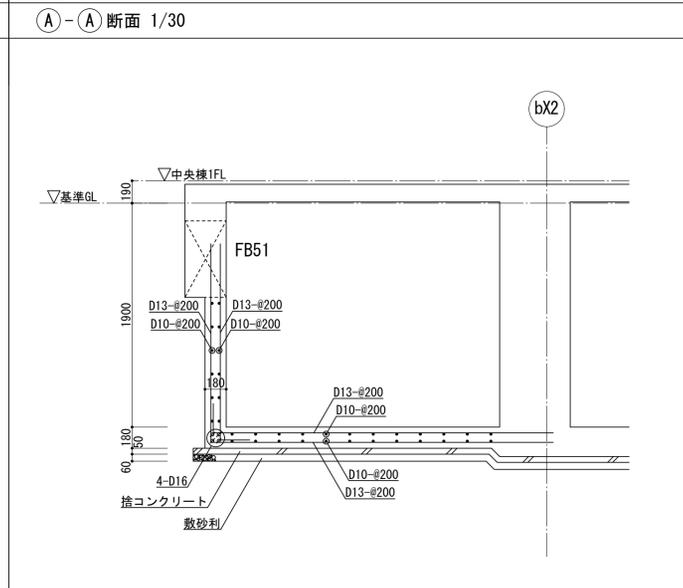
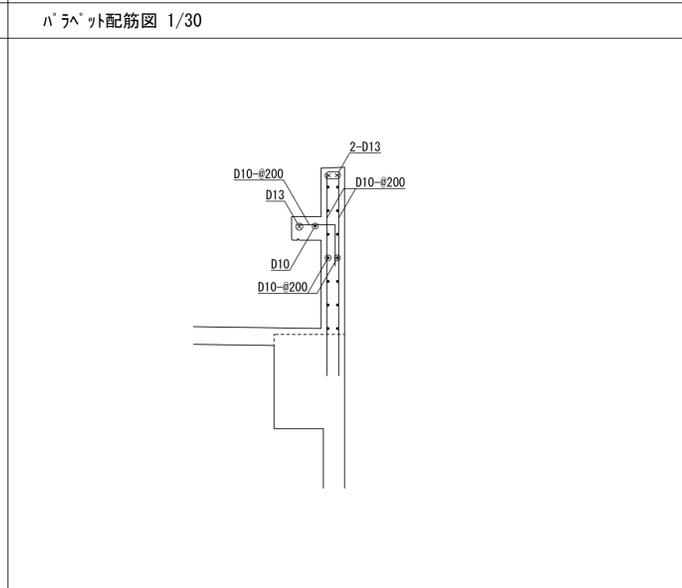
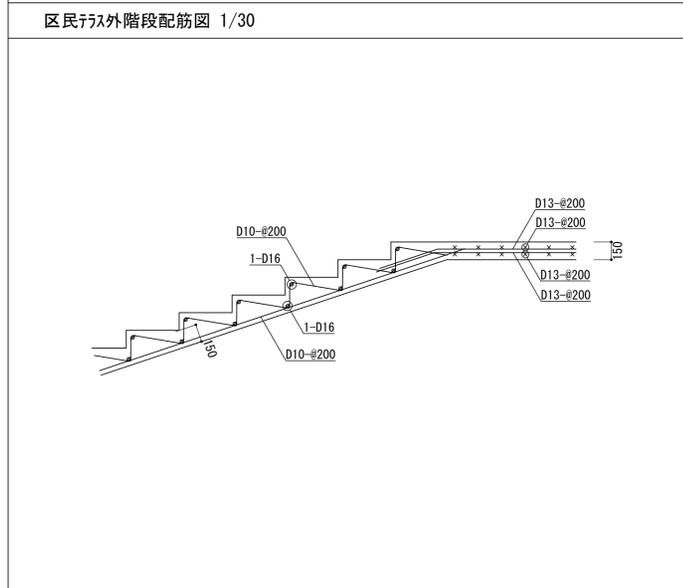
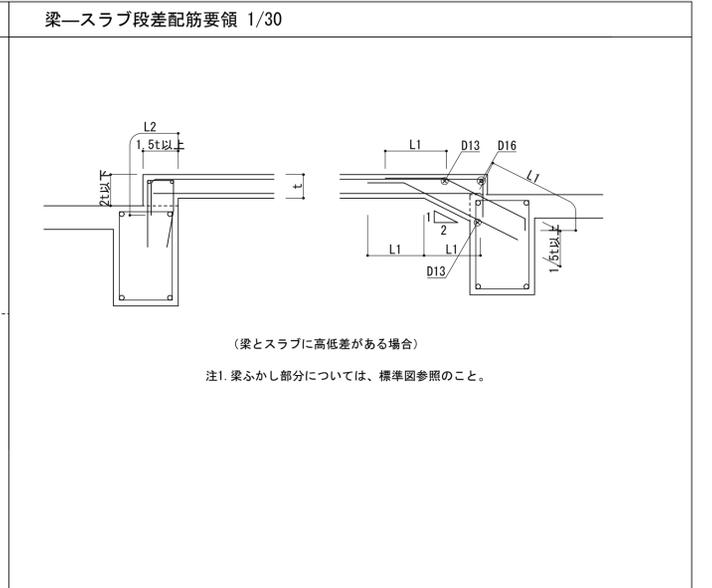
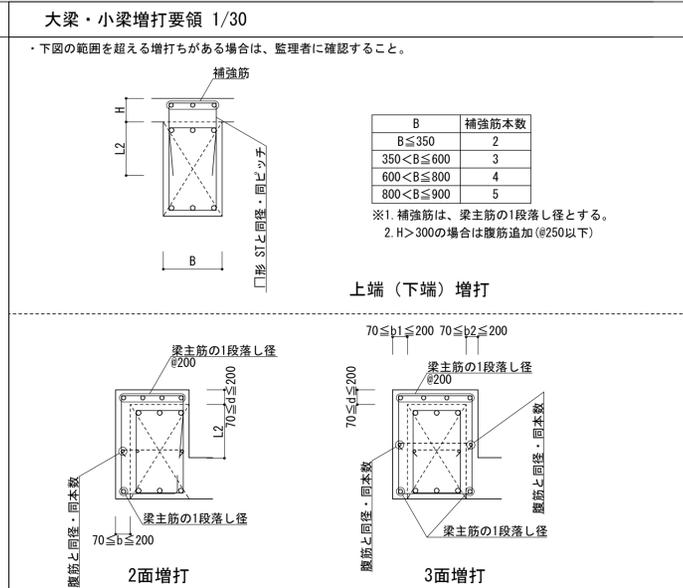
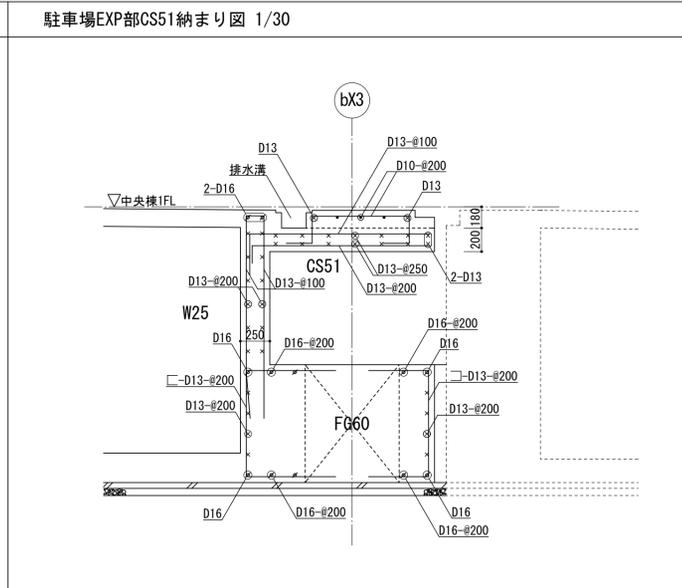
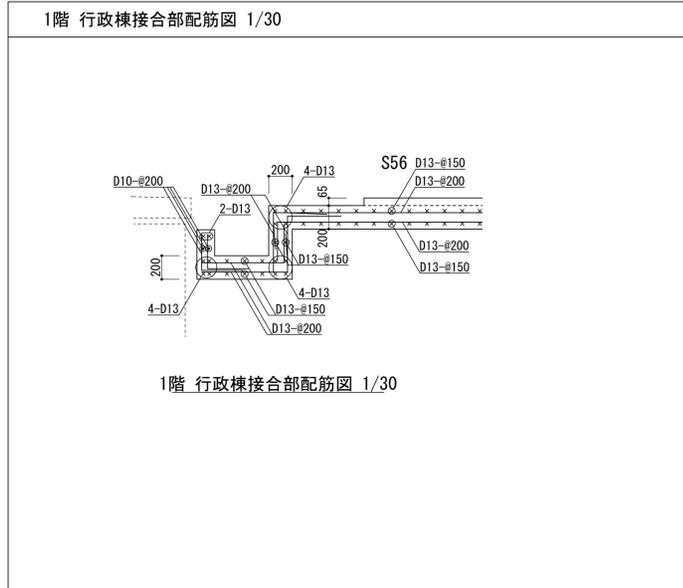
水平スリット要領図

※上図は参考図である。同等の性能が得られる既製品等の使用については、監理者の承認を得る事とする。

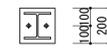
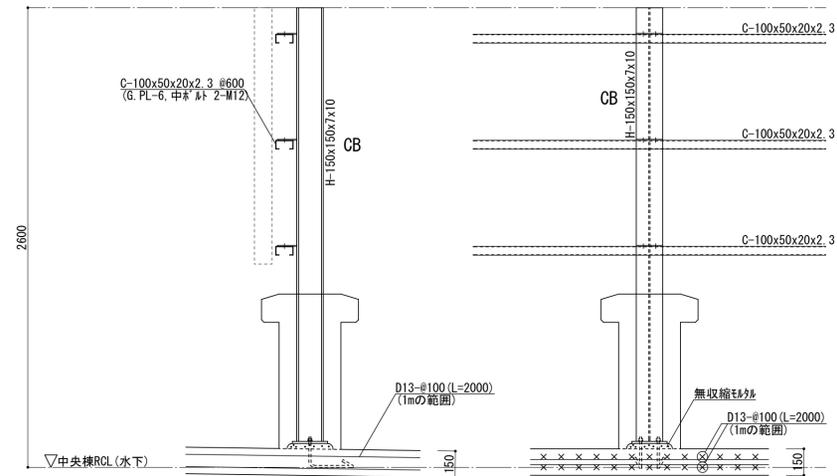


b4通り配筋詳細図 1/30

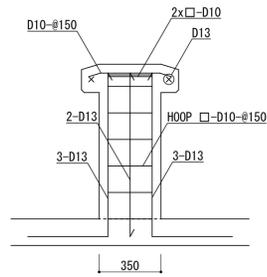
■注記	管理建築士 一級建築士 登録第166404号 吉村久夫	横浜市建築局	工事名 金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)
	年月日 平成28年8月	縮尺 A1=1/30 A3=1/60	図面名称 b4通り配筋詳細図
	設計者 株式会社 国設計	図面枚数 1/30	図番番号 S-C16



目隠しルーバー詳細図 1/20



B. PL-12  
A. BOLT 2-M12 (SS400) (L=300)

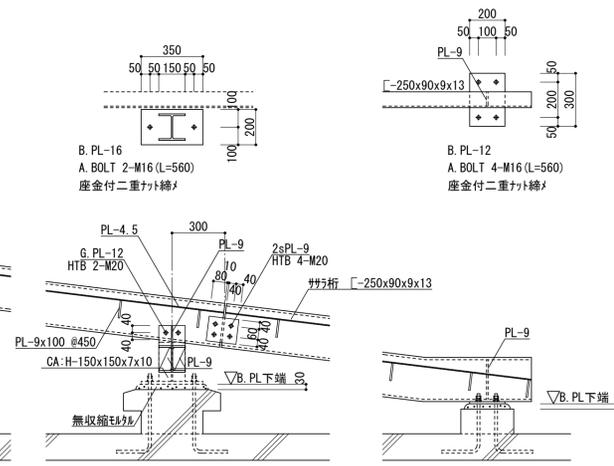
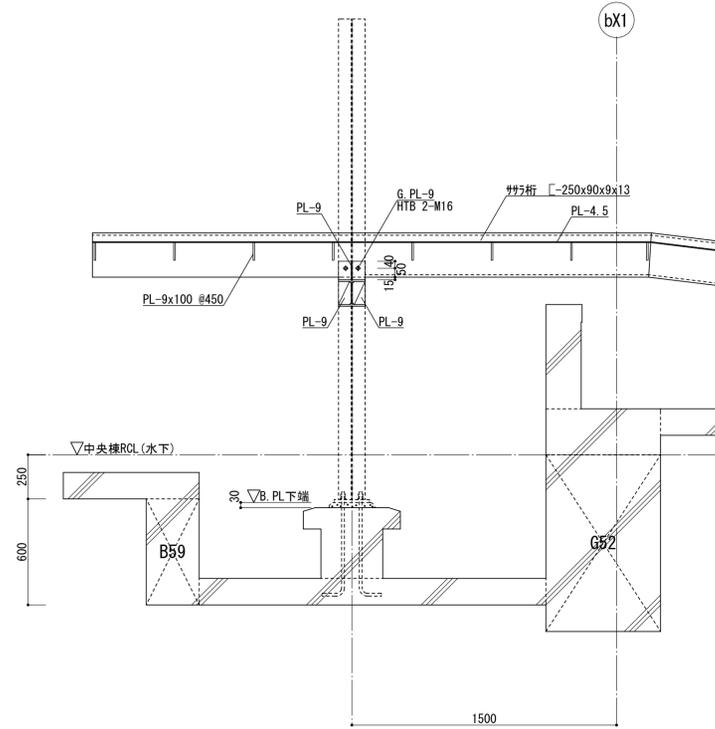


目隠しルーバー 特記事項

- 鉄骨 SS400 柱  
SSC400 鋼線
- ボルト 中ボルト
- 錆止塗装 溶融亜鉛メッキ

その他図面に記載なき項目は  
国土交通省大臣官房官庁営繕部監修  
「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」  
平成25年版によること

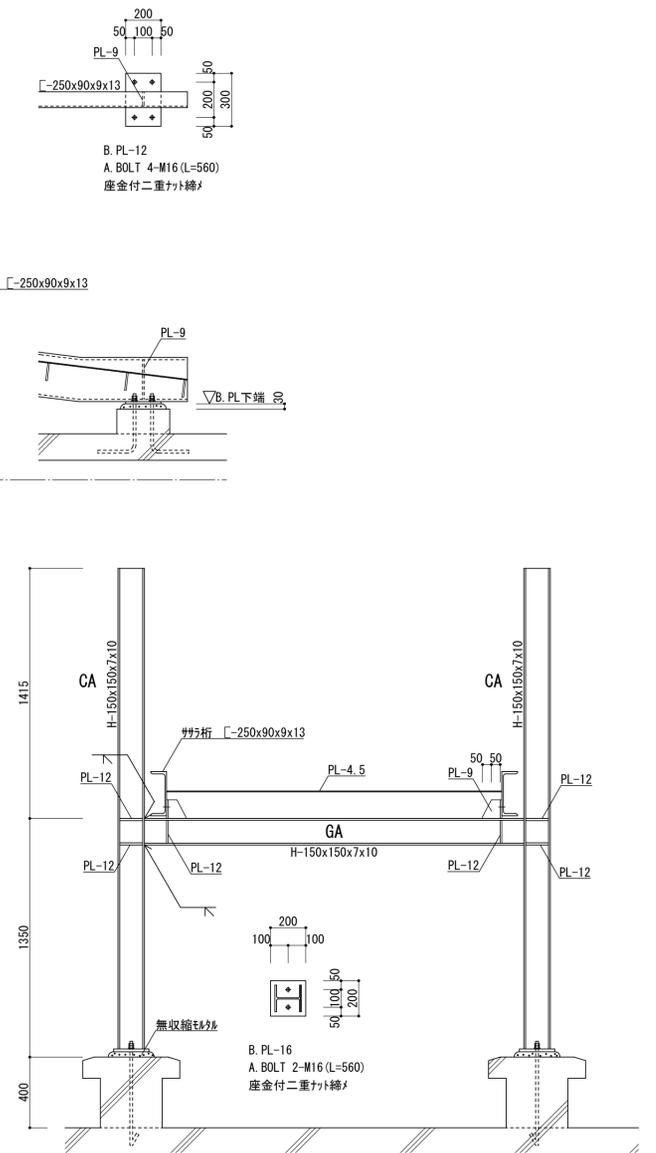
EXP. J部 鉄骨階段詳細図 1/20



EXP. J部 鉄骨階段 特記事項

- 鉄骨 SS400
- ボルト F8T (溶融亜鉛メッキ)
- 錆止塗装 溶融亜鉛メッキ

その他図面に記載なき項目は  
国土交通省大臣官房官庁営繕部監修  
「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」  
平成25年版によること



■注記

管理建築士 一級建築士 登録第166404号 吉村久夫	横浜市建築局	工事名 金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)
年月日 平成28年8月	縮尺 A1=1/20 A3=1/40	図面名称 雑詳細図
設計者 株式会社 国設計	施設番号	構造
竣工年度	図面枚数	図面番号
構造	構造	S-C18